

青森明の星短期大学・大阪千代田短期大学

## 相互評価報告書

令和2年6月

## 目次

はじめに .....	1
1. 相互評価の実施要項等 .....	2
(1) 相互評価の経緯 .....	2
(2) 相互評価協定書（写し） .....	4
(3) 相互評価の実施計画、方法 .....	5
(4) 相互評価会議の実施要項 .....	6
2. 相互評価の概要 .....	8
(1) 青森明の星短期大学の沿革 .....	8
(2) 大阪千代田短期大学の沿革 .....	10
3. 学長講演 .....	12
(1) 青森明の星短期大学 学長 石田一成 講演 .....	12
(2) 大阪千代田短期大学 学長 松浦善満 講演 .....	20
4. 基準Ⅱ「A教育課程」における点検・評価 .....	28
(1) 大阪千代田短期大学の報告 .....	28
(2) 青森明の星短期大学の報告 .....	32
(3) 「A教育課程」に関する質疑応答 .....	40
5. 基準Ⅱ「B学生支援」における点検・評価 .....	47
(1) 青森明の星短期大学の報告 .....	47
(2) 大阪千代田短期大学 .....	58
(3) 「B学生支援」に関する質疑応答 .....	70
6. 相互評価の結果報告 .....	75
(1) 青森明の星短期大学に対する評価 .....	75
(2) 大阪千代田短期大学に対する評価 .....	77
おわりに .....	79

## はじめに

青森明の星短期大学 副学長 坂本明裕

このたび、大阪千代田短期大学と本学との「自己点検・評価に関する相互評価」が実施できましたことは、ひとえに大阪千代田短期大学の松浦学長、鯉坂先生（ALO）、中嶋事務局次長はじめ教職員のみなさまのご尽力によるものと心より感謝申し上げます。

大阪千代田短期大学と本学は現在の設置学科（幼児教育）や少規模の短大であること、また大阪千代田短期大学は同一キャンパス内に高野山大学文学部との共同事業により「子ども学科新設」計画を進めており、一方本学では「プラットホーム事業」をはじめ、下北キャンパスの稼働など多くの共通した課題があることも、お互いに親近感を覚え、今回の相互評価実施がスムーズに進んだ大きな要因であったと考えております。

18歳人口の減少に伴い、短期大学に限らずともその経営基盤である学生確保は、大きな命題となっております。大学は一層、教育の質の保証に努めることが求められています。このたびの相互評価では、相手校の教職員に対する双方の学長によるFD研修会をはじめ、報告会により情報交換することで新たな課題や改善点の発見に繋がったことが最大の収穫であったと感じています。

最後に、今回の相互評価実施にご尽力いただきました大阪千代田短期大学の教職員のみなさまと青森明の星短期大学教職員一同に今一度御礼申し上げます。

## 1. 相互評価の実施要項等

### (1) 相互評価の経緯

大阪千代田短期大学 事務局長 森 秀雄

#### ・2019（令和元）年6月14日 短期大学基準協会から「相互評価データ」についての通知

本学として初めての「相互評価」の取組みであった。短期大学基準協会の通知によれば「相互評価」は本学を含め48校が承諾をいただいたとあり、その学校名一覧が記載されていた。手探りの中で相手校を探すこととなり、複数の短期大学に申し込みしたが条件が合わず実現しなかった。

#### ・2019（令和元）年7月17日 青森明の星短期大学から相互評価の取組みに快諾をいただく

その中で、7月17日、かつて本学の学科編成のあり方についてご相談・ご指導をいただいたことのある青森明の星短期大学にお願いしたところ、同短期大学よりご快諾をいただき、相互評価が実現することとなった。

#### ・2019（令和元）年8月2日 東京で両短期大学の学長の顔合わせ

東京で開催された日短協主催の「学校教育法等一部改正説明会」に両短期大学の石田学長と松浦学長、事務担当の代表者（蓮井事務長、中嶋事務局次長）が参加し、初めての顔合わせを行った。

#### ・2019（令和元）年9月～12月 両短期大学のALOによる諸準備のための打合せが始まる

この頃から、両短期大学のALO（泉谷千晶先生、鱒坂はるよ先生）を中心として、相互評価の具体的な方法と内容、手順と日程等について打合せが始まった。

#### ・2019（令和元）年11月14日 青森明の星短期大学学長の講演会を開催

相互評価の取組みの一環として、両学長が相互に講演を行うことになり、11月14日、青森明の星短期大学学長が、11月14日、大阪千代田短期大学において「青森明の星短期大学の大学改革と今後の戦略」と題する講演を行った。

・2019（令和元）年12月11日 大阪千代田短期大学学長の講演会を開催

続いて大阪千代田短期大学学長が、12月11日、青森明の星短期大学において「学園創立70周年・大阪千代田短期大学の挑戦」と題する講演を行った。

・2019（令和元）年12月～2020（令和2）年1月 評価対象項目、項目別相互評価方法等を決定

青森明の星短期大学のALO（泉谷千晶先生）のご指導をいただき、2つの評価対象項目（「基準Ⅱ-A 教育課程」、「基準Ⅱ-B 学生支援」）、協定書の作成、評価方法（プレゼン実施日程、当日の進行スケジュール、質疑応答等）、報告書の作成等について、詰めの作業を行い決定した。

・2020（令和2）年2月14日 両短期大学の関係者が集い相互評価を実施

2月14日（金）10：00～16：00、東京都千代田区の私学会館「アルカディア市ヶ谷」に、両短期大学から各6名（計12名）が参加し相互評価を実施した。午前には評価項目「基準Ⅱ-A 教育課程」について両校からプレゼンテーションと質疑応答、午後は「基準Ⅱ-B 学生支援」についてプレゼンテーションと質疑応答を行い、最後にまとめと今後の報告書作成等について確認を行った。

(2) 相互評価協定書 (写し)

### (3) 相互評価の実施計画、方法

◇青森明の星短期大学 学長 石田一成 講演

日時： 11月14日(木) 15:00～16:30

場所： 大阪千代田短期大学

◇大阪千代田短期大学 学長 松浦善満 講演

日時： 12月11日(水) 14:30～16:00

◇相互評価会議

日時： 2020年2月14日(金) 10:00～16:00

会場： 「アルカディア市ヶ谷」 (東京)

出席者

#### 【大阪千代田短期大学】

	役 職	氏 名	備 考
1	学長	松 浦 善 満	教授
2	副学長	青 木 淳 英	教授
3	学科長	寄 ゆ か り	教授
4	A L O	鯨 坂 はるよ	准教授
5	学生支援委員会委員長	本 田 和 隆	講師
6	事務局次長	中 嶋 理 生	

#### 【青森明の星短期大学】

	役 職	氏 名	備 考
1	学長	石 田 一 成	教授
2	学科長	江 口 真 理	教授
3	A L O	泉 谷 千晶	教授(保育専攻長)
4	教育支援部長	高 橋 多恵子	専任講師
5	学生支援部長	木 戸 永 二	専任講師
6	キャリア支援課 総括課長	三 上 広 典	

#### (4) 相互評価会議の実施要項

	進行：青森明の星短期大学 ALO 泉谷千晶	
10：00	<b>「協定書」調印</b> <b>記念撮影</b>	
10：10	<b>開会</b> ○ 学長挨拶 ○ 参加者自己紹介	青森明の星短期大学 ALO 泉谷千晶 大阪千代田短期大学学長 松浦善満 青森明の星短期大学学長 石田一成
	<b>項目別相互評価：基準Ⅱ「A教育課程」</b> ○ プレゼンテーション（各30分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪千代田短期大学 副学長 青木 淳英</li> <li>・青森明の星短期大学 教育支援部長 高橋 多恵子</li> </ul> ○ 質疑応答	
12：00	<b>昼食、情報交換・懇談会（別室）</b>	
13：00	進行：大阪千代田短期大学 ALO 鱒坂はるよ	
	<b>項目別相互評価：基準Ⅱ「B学生支援」</b> ○ プレゼンテーション（各30分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森明の星短期大学 学生支援部長 木戸 永二</li> <li>・大阪千代田短期大学 学生支援委員会委員長 本田 和隆</li> </ul> ○ 質疑応答	
14：50	(休憩)	
15：00	<b>まとめの質疑応答、作業確認</b> ○ おわりに	
	青森明の星短期大学学長 石田一成 大阪千代田短期大学学長 松浦善満	
15：55	<b>閉会</b>	
16：00	(終了)	



## 相互評価会議の基本評価項目

### <基準Ⅱ A教育課程>

- DPのアセスメントシステムについて
  - ・学習成果の獲得状況に関する量的・質的データの収集と測定方法
  - ・学生の学習成果の可視化の方法
- CPの構造化
  - ・教育課程の編成
  - ・シラバス、AL、授業の質の向上のための取り組み
- APに関する活動
  - ・APと入試改革
  - ・高大連携（接続）の取り組み

### <基準Ⅱ B学生支援>

- 学習支援のための環境整備
  - ・学習環境の整備
  - ・課外活動（取り組み）、地域貢献・ボランティアの促進
- 学生生活の充実に向けた組織的な支援体制
  - ・学生支援のための個人情報記録ツールと相談体制
  - ・学生の多様なニーズへの対応と満足度の向上のために
  - ・多様な奨学金及び経済的支援策について

## 2、相互評価の概要

### (1) 青森明の星短期大学の沿革

1937年	11月	青森技芸学院開校
1946年	2月	同校廃止（1948年3月限り）
1948年	3月	新制青森明の星高等学校全日制 普通科
1951年	3月	学校法人 青森明の星学園設立
1956年	10月	弘前明の星幼稚園設置
1963年	1月	青森明の星短期大学設置 英語科 音楽科 附属音楽教育研究所設置
1965年	1月	同上 保育科、専攻科（英語専攻、音楽専攻）増設
1966年	10月	浦和明の星幼稚園設置者変更許可 前設立者：宗教法人カトリック聖母被昇天会
1967年	1月	青森明の星短期大学専攻科設置 英語専攻 音楽専攻
1967年	1月	浦和明の星女子高等学校設置 全日制課程 普通科
1967年	11月	法人名称変更 学校法人 明の星学園
1971年	1月	青森明の星短期大学附属幼稚園設置
1971年	1月	明の星女子短期大学設置 英語科 仏語科
1972年	4月	英語科を英語学科、保育科を幼児教育学科に名称変更
1981年	10月	米国オハイオ・ドミニカン大学と姉妹校提携調印
1985年	4月	学校法人明の星学園の主たる事務所（法人事務局）を埼玉県浦和市大牧770番地（浦和校地）に移転
1998年	4月	専攻科（保育専攻）増設
1999年	4月	明の星学園生涯学習センター設立 中国吉林国際語言文化学院と姉妹校提携調印
2000年	4月	青森明の星短期大学国際交流センター設立
2001年	4月	英語学科を現代コミュニケーション学科改組、附属幼稚園新築
2002年	4月	明の星女子短期大学 英語科 仏語科 学生募集停止

2003年	4月	青森明の星短期大学創立40周年 幼児教育学科を幼児保育学科に名称変更
2004年	3月	同 廃止
2003年	4月	浦和明の星女子中学・高等学校開校
2005年	10月	中国東北師範大学人文学院と姉妹校提携調印
2007年	4月	幼児保育学科を子ども学科に名称変更 現代介護福祉学科開設
2008年	4月	青森明の星中学校開校
2013年	4月	青森明の星短期大学創立50周年
2014年	4月	子ども福祉未来学科（保育専攻委・介護福祉専攻）解説
2017年	4月	介護福祉専攻をコミュニティ福祉専攻に名称変更

## (2) 大阪千代田短期大学の沿革

1947年	10月	財団法人 女子専修学院設立（設立者 高野山真言宗準別格本山 盛松寺住職・高橋道雄師）
1950年	3月	千代田高等学校及び附属幼稚園設立 財団名を千代田学園と改称
	4月	千代田高等学校（家庭科）開校、附属幼稚園開園
1951年	3月	学校法人千代田学園設立認可（理事長 高橋道雄師）
1964年	11月	附属幼稚園 河内長野市千代田南地区に移転（東幼稚園）
1965年	4月	千代田短期大学（幼児教育科）開学 千代田高等学校附属幼稚園を千代田短期大学附属幼稚園に改組 幼児教育研究所を開設
1966年	4月	短期大学幼児教育科に小学校教諭養成課程開設※（平成20年4月廃止）
	10月	千代田短期大学を大阪千代田短期大学に名称変更
1967年	4月	大阪千代田短期大学に専攻科（幼児教育専攻）を設置
1968年	4月	大阪千代田短期大学幼児教育科に指定保育士養成施設認可 大阪千代田短期大学附属幼稚園（西幼稚園）開園
1972年	8月	附属幼稚園（東幼稚園）河内長野市楠町西（現在地）に移転
1973年	4月	附属東・西幼稚園統合
1989年	4月	大阪千代田短期大学幼児教育科定員変更認可（入学定員80名を120名、但し指定保育士養成施設定員は80名）
1990年	4月	大阪千代田短期大学に英米語学科開設、英米語学科棟落成
	10月	保護者後援会OBによる峯友会発足
1994年	3月	大阪千代田短期大学生生活協同組合設立
1994年	10月	大阪千代田短期大学小山田校地に新学舎竣工、新校地に全面移転
1998年	4月	大阪千代田短期大学に生涯学習センター設置
2000年	4月	大阪千代田短期大学英米語学科を総合コミュニケーション学科に改組、幼児教育科とともに男女共学化

2004年	4月	大阪千代田短期大学総合コミュニケーション学科に介護福祉士養成課程設置(定員40名) 幼児教育科の指定保育士養成施設定員変更認可(80名から120名に)
2006年	4月	大阪千代田短期大学幼児教育科定員変更認可(指定保育士養成施設定員共に120名から150名に)
2007年	10月	一般財団法人短期大学基準協会による第1回目の「認証評価」を受ける
2010年	4月	大阪千代田短期大学幼児教育科定員変更認可(指定保育士養成施設定員共に150名から100名に) 総合コミュニケーション学科定員変更認可(100名から80名に)
2012年	10月	河内長野市教育委員会と「連携協力協定」を締結
2014年	7月	河南町教育委員会と「連携協力協定」を締結
	10月	一般財団法人短期大学基準協会による第2回目の「認証評価」を受ける
	12月	大阪千代田短期大学に福祉実務研修センターを設置
2016年	4月	大阪千代田短期大学幼児教育科入学定員を100名から150名に変更 総合コミュニケーション学科入学定員を80名から30名に変更
2017年	1月	高野山大学と「連携協定書」を締結
	4月	大阪千代田短期大学総合コミュニケーション学科募集停止 大阪千代田短期大学の介護福祉士養成施設名を総合コミュニケーション学科介護福祉コースから幼児教育科介護福祉コースに名称変更 附属幼稚園を幼稚園型認定こども園に移行

### 3. 学長講演

#### (1) 青森明の星短期大学 学長 石田一成 講演

大阪千代田短期大学の明日を考える学習会

2019. 11. 14

#### 「青森明の星短期大学の大学改革と今後の戦略」

青森明の星短期大学 学長 石田 一成  
学科長 江口 真理  
事務長 蓮井 直樹

#### 本学のコンセプト・・・ 日本型コミュニティ・カレッジ

##### 「一人一人を大切にする教育」

- ①学生一人一人を大切にする教育
- ②地域住民、社会人、女性の学び直しを支援



誰でも、学ぶことができる短大の具現化

#### 基本理念実現のためのプロセス

##### 「何のために、何をするか」

課題 ⇒ 解決策 ⇒ 発展

## 課題

### 地域課題

- ア 若年者人口の急激な減少
- イ 大学等進学率（青森県 46.2% 京都府 65.9%）  
青森県34位 京都府1位
- ウ 地域経済の停滞  
県全体の人口の減少、地方の疲弊
- エ 若年労働者不足

## 解決策

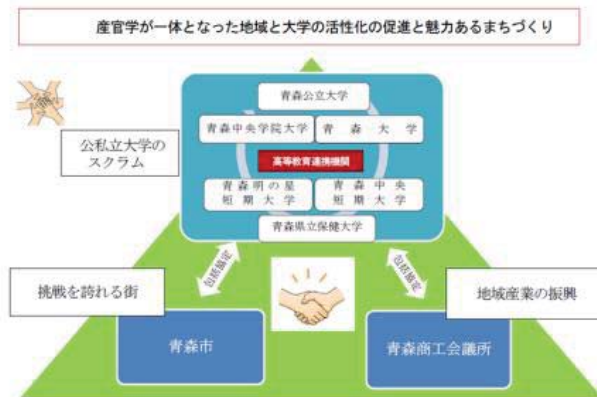
- ア 県外流出をとめる方策、魅力ある地域づくり
- イ 進学率が低い  
→ 潜在的需要がある。（経済的課題等のクリア）
- ウ 行政、経済界、高等教育機関の一体的な取り組み
- エ 課題を共有し、連携し、一体となって取り組む。

## § 1 青森市産官学連携プラットフォーム

## 事業スタート前の状況

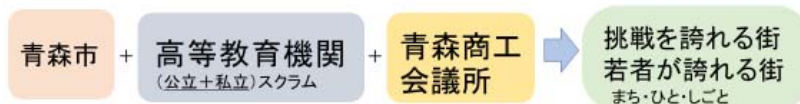
- (1) 各大学との包括協定  
 青森大学、青森中央学院大学、青森中央短期大学、八戸学院大学、八戸学院大学短期大学部  
 \* 共同SD 共同FD 共同IR 共同学生募集
- (2) 合同研修  
 講師：文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団
- (3) 広い地域連携  
 中泊町、むつ市、地元企業、社会福祉法人、NPO法人  
 ※当時は青森県高等教育機関懇談会のとりまとめ校

## 青森市内プラットフォーム形成



## 産官学スクラム

### プラットフォーム形成





## 各機関の主な取組

青森市	青森商工会議所	柱立て
〈明日の街を創る〉 1 しごと創り 2 ひと創り 3 まち創り	1 地域産業の振興 2 地域活性化 (中心市街地活性化等) 3 産学連携 4 健康福祉の増進 5 人材の育成	1 人材育成 (若者・社会人) 2 まちづくり 3 産業の振興 4 健康・福祉 5 大学連携

## 青森市産官学連携プラットフォーム中長期計画

- (1) 人材育成に関すること
- (2) まち創りに関すること
- (3) 地域経済の活性化に関すること
- (4) 学びの推進に関すること
- (5) 健康・福祉の増進に関すること
- (6) 共同研究に関すること



## 事業計画と進捗管理

- (1) 連携事業
  - 昨年度 37事業
  - 今年度 40事業 (学生の起業関係3事業 追加)
  - \* 目玉事業
    - ヘルスツーリズムの研究 若手起業セミナー LAねぶたへの参加
    - (学生の国際交流の促進) 共同研究 共同学生募集
  - 単位互換、学生管理システム
- (2) 進捗管理 5年計画(3年目 中間見直し)

## 目玉事業

ヘルスツーリズム、若手起業セミナー、LAねぶた



## 青森市産官学連携プラットフォーム事業の効果

(1) 青森におけるダイナミズムの起爆

産官学連携 + 観光、医療、金融等の連携の兆し

→ オール青森に一役

(2) 事務職員とそのキャリアアップ

他大学との連携 + 企画、調整

→ チャレンジ

【参考資料】 23p

## 青森市産官学連携プラットフォーム事業の発展

1 ヘルスツーリズム

地域活性化事業 ➡ 青森ヘルスツーリズム研究会 ➡ 地域の活性化

2 学生

学生の企画 ➡ 青森学生ビジネス連合 ➡ 若手起業家育成

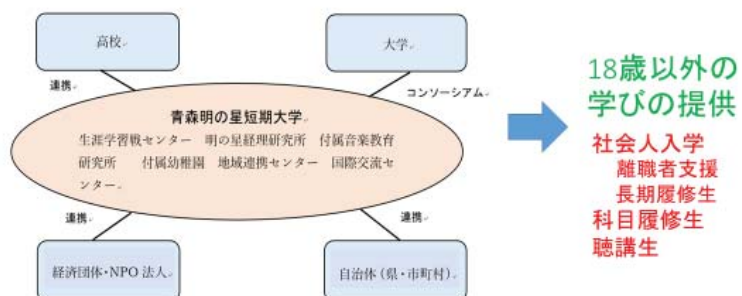
プラットフォームの発展型

プラットフォーム ➡ コンソーシアム ➡ 大学機構

## § 2 青森明の星短期大学の今後の戦略

### <基本コンセプト>

生涯学習の拠点 「青森明の星短期大学 花よ花咲けプロジェクト」



### 学びのファーストステップ

短大の存在意義



## 国際化への対応



## 高等教育機関のない地域にサテライトキャンパスの開設



## ICTの活用(教育の高度化) - スマホを活用した事例 -

フィールドワークが可能。(遠隔授業でも活用可)



書を捨てて、街に出よう

## 下北での遠隔教育



## まとめ

- 1 本学の教育理念 「すべての人はみな同じ」→生涯学習社会の実現
  - 2 豊かな社会とは、心の豊かな社会
  - 3 教育基本法 第3条 生涯学習の推進
- ◎ 我が国は自由と民主主義の国。教育の機会均等の実現こそ、必要。  
人口減少、高齢化が問題ではない。  
成熟した社会の実現こそ、高等教育機関の役割。特に地方大学の  
役割であると考えている。

願わくば、補助金から脱出した健全経営

ご静聴ありがとうございました。



(2) 大阪千代田短期大学 学長 松浦善満 講演



明の星短期大学さんとのご縁(つながり)

☆「交流は5年前から。」(本学事務局次長中嶋談)

☆大学基準協会(認証評価)が橋渡し

明の星短期大学から学んだもの  
(2019. 11. 14石田学長講演から)

- ▶ 「高野山に宿泊されたこと、石田三成の末裔ということで親近感をもった。」(事務系)
- ▶ 「事務方が変われば**大学は変わる**という言葉にハッとさせられた。日常業務をこなすだけでなくどういう目標を持ち、そのためにどうすればいいかなど、受け身でない攻めの姿勢を持たなければならないと思う。」(事務系)
- ▶ 「**プラットフォーム**構想は聞いていたが既に実施に移されていることに驚くとともに先を見越した改革をすすめる重要性を学んだ」(教員) 「補助金に頼らない大学運営は一考」(理事)

## 本学は、綜芸種智院式(空海)の理想を建学の精神に発足

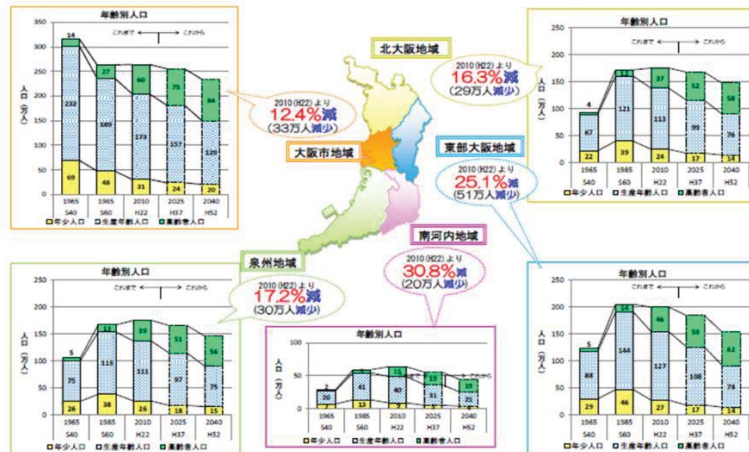
- ▶ 昭和22年 高橋道雄（高野山真言宗別格本山盛松寺住職）  
財団法人女子専修学院
- ▶ 昭和26年（1951年）学校法人大阪千代田学園設置認可（高等学校・幼稚園設立）
- 昭和40年（1965年）日本最初の「幼児教育科」として  
大阪千代田短期大学（幼児教育科）を開学

綜芸とは・・・「密教・顕教・道教」（学問・教養）  
種智院とは・・・「育苗場」（Seminarium）

## 本短期大学の位置(大阪・南河内)



## 南河内 人口と年少人口減少率大きい



## - 教育の理念 -

### 【教育の理念】

人格の発展と豊かな成長を図る『人間教育』を目的とし、学問的知識、実際の技量、人間性を培う教育を行う。

### 【千代田SHIP - 私たちの教育方針】

**Small** → 少人数教育

**Heartful** → あたたかい心のふれあいを大切に

**Intellectual** → 豊か知性と広い視野を養う

**Practical** → 実践的な知識と能力を身につける

### SMILEを支える教員陣

私自身が培った自分の空気を、仲間と共有し、学びの場を活性化させよう。

専門的支援をもって、高度に教員。最新の技術や知識、最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

学生の学びを、知ってほしい。最新の技術や知識、最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

みんなを「幸福」にする。そんな教員。最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

社会に適用する自分の得意分野を、最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

元気に学ぶ姿を、最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

「教員」もまたコミュニケーション。最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

子どもに寄り添い、行動の歩み取る。最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

好奇心を育て、チャレンジ。最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

考える力、解決する力。最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

子どもたちの楽しい笑顔のまじり。最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

保育の道は学べ、やりがいが見えない。最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

深い保育を、心から読み解く。最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

人は生まれながらにして、無限を宿す。最新の設備・設備を整え、学生の学びをサポートする。

笑顔あふれるキャンパスです!!

### 就職

## 専門性を極める就職力

就職教育で培った専門性を活かして、夢を叶えよう。

2017年度就職率 **100%** を達成

2017年度就職率 **1,511** 件

企業への就職率 **80%** 以上

和歌山出身者 地元で活躍!

1万を超える卒業生の実績が、1,500件以上の求人を探せます!

業種	人数
（保育業）	198
（幼稚園）	198
（教員）	398
（企業）	60

卒業生の就職実績

企業への就職率 80%以上

和歌山出身者 地元で活躍!

企業への就職率 80%以上

和歌山出身者 地元で活躍!

企業への就職率 80%以上

和歌山出身者 地元で活躍!

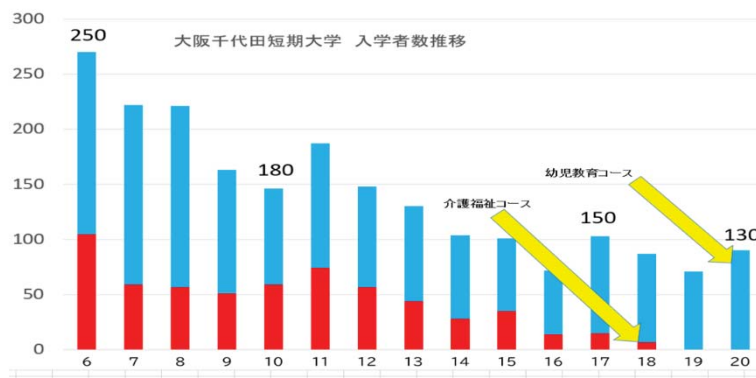




		大阪の短期大学の現状	
単独	校数	大学名	
	1	編野大学短期大学部(第一看護学科・第二看護学科)	
廃止	2	大阪青山短期大学(幼児教育・保育科・調理製菓学科)	
	3	大阪音楽大学短期大学部(音楽科)	
	4	大阪学院大学短期大学部(経営実務科)	
短大	5	大阪キリスト教短期大学(幼児教育学科)	
短大	6	大阪芸術大学短期大学部(英米文化学科・保育学科・経営デザイン学科)	
	7	大阪健康福祉短期大学(介護福祉学科・子ども福祉学科)	
	8	大阪国際大学短期大学部(ライフデザイン総合学科・幼児保育学科)	
	9	大阪産業大学短期大学部(自動車工学科)	
	10	大阪城南女子短期大学(現代生活学科・総合保育学科・人間福祉学科)	
	11	大阪学院短期大学(英経科)	
	12	大阪成蹊短期大学(児童教育学科・生活デザイン学科・観光学科・経営会計学科・グローバルコミュニケーション学科・栄養学科・調理・製菓学科)	
短大	13	大阪夕陽丘学園短期大学(食物学科・キャリア創造学科) (2005年に大阪女子学園短期大学より改称)	
廃止	14	大阪女子短期大学(生活科学科・保健科・幼児教育科)	
短大	15	大阪信愛女子学院短期大学(子ども教育学科・看護学科)	
短大	16	大阪千代田短期大学(幼児教育科・総合コミュニケーション学科)	
	17	関西外国語大学短期大学部(英米語学科)	
	18	関西女子短期大学(保育科・保健科・歯科衛生学科)	
	19	近畿大学短期大学部(商経科)	
短大	20	堺女子短期大学(美容生活文化学科)	
	21	四條畷学園短期大学(ライフデザイン総合学科・保育学科)	
	22	四天王寺大学短期大学部(生活ナビゲーション学科・保育科) (2008年に四天王寺国際仏教大学短期大学部より改称)	
廃止	23	樟蔭東短期大学(生活学科)	
	24	常盤会短期大学(幼児教育科)	
廃止	25	東大阪大学短期大学部(018年介護福祉科新設 実務栄養学科・実務保育科)	
廃止	26	フール学院短期大学(秘書科・幼児教育保育学科)	
	27	平安女学院大学短期大学部(保育科)	

大	短期大学名	学科名	学園	高等学校			2020年度	2019年				2018年度	2017年度	2016年度
				併設	男女	共		定員	募集定員	入学	入学率			
大学	西天王寺大学短期大学部	保育科	有	有	女共	有	120	112	93%	▲ 7	119	134	107	
20年募集停止	ブルー学院大学短期大学部	幼児教育保育学科	有	有	女子	無	90	24	27%	▲ 30	54	77	80	
大学	西条短期大学	保育学科	有	有	共	有	100	82	82%	▲ 28	111	102	105	
19年募集停止	大塚クリスト教短期大学	幼児教育科	無	無	0	無	170	200	126%	63%	34	82	115	331
無	大塚千代田短期大学	幼児教育コース	無	有	共	有	100	71	71%	▲ 9	80	81	58	
大学	関西女子短期大学	保育学科	有	有	共	有	120	95	79%	9	86	128	114	
無	大塚信愛女子短期大学	子ども教育学科	無	有	女子	有	120	42	35%	▲ 30	72	83	90	
大学	大阪成蹊短期大学	幼児教育学科	有	有	女子	有	280	300	310	103%	13	297	302	282
大学	常盤会短期大学	幼児教育科	有	無	女子	無	300	207	69%	▲ 43	250	272	253	
大学	大阪城南女子短期大学	総合保育学科	有	有	女子	有	170	147	86%	11	136	154	125	
大学	東大阪大学短期大学部	実践保育学科	有	有	女子	有	80	38	48%	▲ 28	66	82	50	
大学	大阪国際大学短期大学部	幼児保育学科	有	有	女子	有	150	146	97%	11	135	149	129	
無	大阪健康福祉短期大学	こども福祉学科	無	無	共	無	50	50	100%	10	34	43	63	
大学	平安女学院大学短期大学部	保育科	有				100	77	77%	9	68	70	57	
大学	大阪芸術大学短期大学部	保育学科	有	無	共	無	100	102	102%	20	64	62	67	
17年募集停止	大塚女子短期大学	—	有	有	女子	有					0	101		
15年募集停止	大塚青山大学短期大学部	保育科	有	無	無									
							1890	1495		2	1491	1623	1725	

### 短期大学の危機（学生定員問題）を乗り切るには？



## 繋ぐ挑戦1・高短一貫教育方式の成功を！

大学・高校の学びの再構築と生徒・学生の成長保障が決めて！

「質の高い学び・問いと対話のある学び・フィールドと教室を結ぶ学びの往還」

- (1) 幼児教育コース(60~70名)カリキュラム・交流授業
- (2) 高短一貫教育相談システム(個人カルテ・ケース会議)
- (3) 高短一貫教育会議の推進(高校教員と短大教員のコラボ)

## 躍進する千代田学園・大阪暁光高校との連携

ゆとりの空間と最新の設備で学びに最良の環境を実現。  
人と環境にやさしい最先端のキャンパス。



暁光高校・幼児教育コース(70名)→千代田短期大学幼児教育学科へ

大阪暁光高等学校4つの学科コース！



奇教授の「幼児と音楽」導入授業  
2019.5





### 高野山大教育学科の魅力(実体験による「非認知能力」形成)

## EXPERIENCE CONTENTS

カラダを感じる、自信が生まれる瞬間がある。 カラダでしか感じることのできないリアルが、きっと先生になったときに力になる。

#### 現場体験学習 FIELD LEARNING

現場での実体験による学習や、自ら発見・創造する中で、実践力を身に付けていく。授業科目だけでなく、学生生活の様々な場面で、高野山大学ならではの体験学習を実施している。授業科目のフィールド学習だけでなく、教員も積極的に現場体験学習を実施している。体験学習のフィールド学習は、高野山大学ならではの体験学習である。

**授業科目** 動物・木工体験 実習体験 授業実践 実習体験

**MESSAGE**

高野山大学ならではの現場体験学習は、高野山大学ならではの現場体験学習である。高野山大学ならではの現場体験学習は、高野山大学ならではの現場体験学習である。高野山大学ならではの現場体験学習は、高野山大学ならではの現場体験学習である。

**1 動物体験学習**

動物と触れ合い、動物の生態や飼育方法を学び、動物の命を大切にする心を育てる。

**2 木工体験**

木工体験を通じて、木の特性や加工方法を学び、創造力を高める。

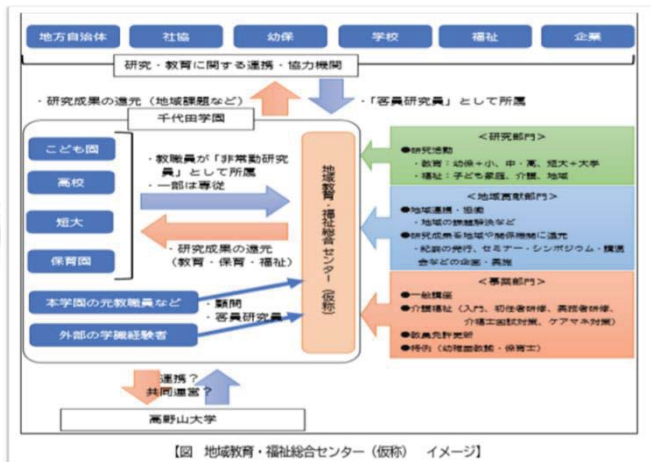
**3 実習体験**

実習体験を通じて、実践力を高め、社会で活躍するための力を身につける。

**先生です。**

**地球が**

繋ぐ挑戦3  
地域教育・福祉総合センター構想の実現



## 教員免許状更新講習に 毎年1000人以上が受講



### これからの大阪千代田短期大学のVW

▶ 創立70周年、飛躍の図る3つのVision(繋ぐ)とWorking



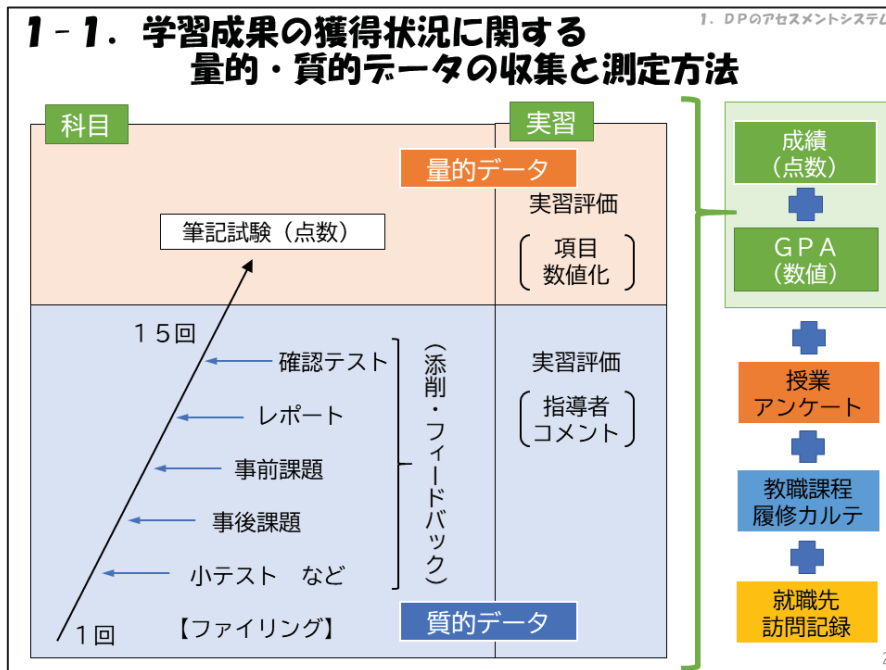
Volkswagen

- ▶ 高短連携の成功 ・高野山大との連携の成功
- ▶ 地域教育福祉総合センター(地域連携)の成功を通して  
学生の質の高い学び・学生の満足度の向上をめざす・・・!

#### 4. 基準Ⅱ「A教育課程」における点検・評価

##### (1) 大阪千代田短期大学の報告

副学長 青木 淳英



# 1-2. 学生の学習成果の可視化の方法

1. DPのアセスメントシステム

## \* 実技、演習

- ・ 作品等の成果物 (造形表現など)
- ・ 技術の習熟度 (ピアノ、介護技術など)
- ・ 実習日誌
- ・ 実習評価 (実習先からのコメントなど)
- ・ 実習報告会



↓  
保管、蓄積、比較 (振り返り) ⇒ 学習成果・獲得の確認

## \* 全体

- ・ 授業アンケート (自身の学習姿勢の自己評価)
- ・ 教職課程履修カルテ ⇒ 学習成果の自己評価

## \* 資格取得状況

- ・ 国家試験・模擬試験の点数、合格率

## \* 就職、進学の状況

- ・ 就職・進学者数 (率)
- ・ 就職先からのコメント



(就職先 園長様のコメント)  
建学の精神に基づき、一人ひとりを細やかに指導されている、という印象。  
たいへん明るい雰囲気かつ学生の皆さんが真面目に学ばれている姿勢に感銘を受けました。

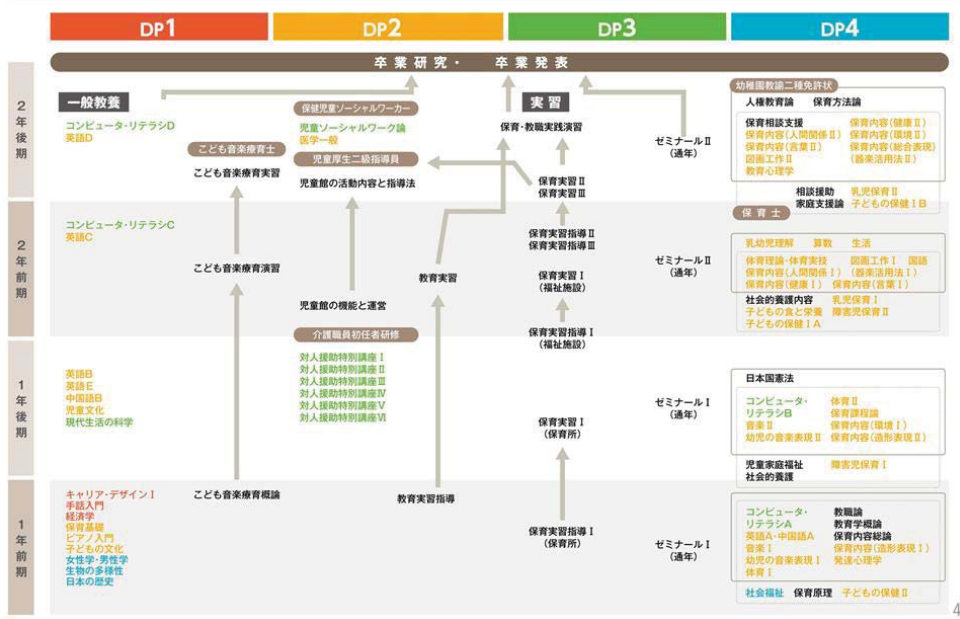
3

# 2-1. 教育課程

2. CPの構造化

## 幼児教育・カリキュラムツリー

■ 子どもの保育・教育に対し情熱・使命感、責任感を身に付けている  
■ 保育・幼児教育に関する専門的知識・技術を修得し、実践力を身に付けている  
■ 課題解決能力を持ち、自ら解決しようとする力を身に付けている  
■ 子どもとその家族を始め人権を守り、人と自然を大切にすることを身に付けている

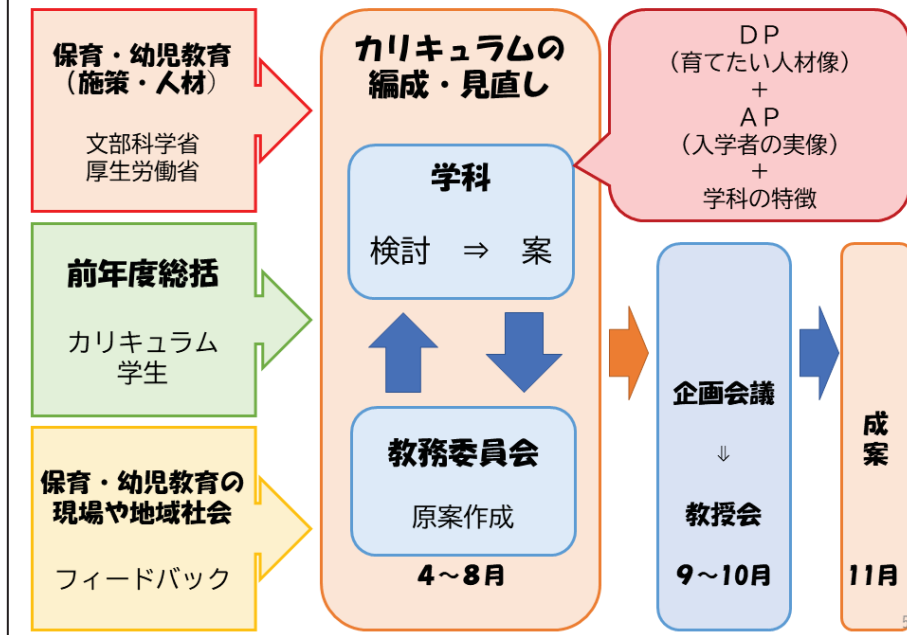


4



## 2-2. 教育課程の編成-検討過程

2. CPの構造化



## 2-3. 教育課程の編成-課題

2. CPの構造化

### ① 本学の人材養成の方針・特徴、教育内容・方法が見えにくい

- \* 求められている人材像 ≠ 育成したい人材像  
→ 十分把握できていない



### ② 学生の入学時の力量を踏まえた見直し

- \* クォーター制の導入 (一部科目)  
→ クォーター制で実施する科目について
  - ・ 授業方法の工夫 (AL、反転学習)
  - ・ 主体的に学ぶための予習・復習・課題の設定

#### \* 自学自習のための「空きコマ」づくり

- 「空きコマ」の有効活用
  - ・ 学生の自主性の引き出し方
  - ・ 補習講座の復活 … になりたい塾
  - ・ ランクアップ講座の再構築



- = 乙女塾：女子学生の有志が集まった学びの場  
「ワンランク上の保育者をめざす！」が目標
- = 男塾：男子学生有志の会  
男性保育者の存在意義、男性ならではの保育力を身につける



## 2-4. シラバス (様式)

2. CPの構造化

- ・授業全体を通してのテーマやこの授業の存在意義を記載する。
- ・学生を主語にして記述。  
例) ○○について知り、理解できるようにすることを目的とする。
- ・「目的と概要」と「評価基準・評価方法」に対応させる。
- ・学生にとっての到達目標であり、教員の課題ではない。
- ・試験のみの回は授業回数に含まれない。
- ・試験による評価の場合は、15回とは別に試験を設定。
- ・各回で学ぶべきことが明確になるように記述。
- ・法令と学則により学習内容は1単位45時間の学習が必要な程度の量を定めることとなっている。
- ・特に講義科目については授業時間が少ない(2単位15回で22.5時間)ため、学生の自学自習が欠かせない。
- ・ついでに、不足分の学習を補うための予復習について注意事項の記載を。

### 地域福祉論

青木 淳英

学修単位	2	講義	15
年度	分2・後		
学期	[前期]		

授業内容

● 目的と概要  
本授業は、介護福祉士にとって重要な役割の1つである地域の福祉課題の把握と人々の地域生活、在宅生活を支える理論と方法について学ぶことを目的としている。  
地域福祉の歴史と考え方、地域における福祉サービスと地域ケアのあり方、地域自立生活の支援とコミュニティソーシャルワーク、地域福祉の自立と連携、地域福祉推進体制と福祉専門職の役割、地域福祉推進の課題と展望について学ぶ。

● 到達目標  
1. 地域社会での様々な生活課題を踏まえ、そこで必要とされる地域福祉の理論と実践の全体像を知っている。  
2. 地域社会における社会福祉の役割とは何かを具体的に考え、それらを実践する力を身につけている。

● 履修方針  
・福祉分野への就職を目指す学生向け。  
「社会福祉」「介護福祉」「社会福祉」「児童福祉」との併修が望ましい。

授業計画

- ガイダンス 科目のねらいと概要
- 地域の生活課題と福祉①「地域支援」とは
- 地域の生活課題と福祉②「地域課題の分析」
- 地域の生活課題と福祉③「地域課題の分析」
- 地域の生活課題と福祉④「地域課題解決プログラムの検討」
- 地域の生活課題と福祉⑤「地域課題解決プログラムの発表」
- 地域での自立生活支援①「地域での自立生活支援」
- 地域での自立生活支援②「一人暮らし高齢者高齢者に対する相談」
- 地域での自立生活支援③「地域での自立生活支援」
- 地域福祉と福祉サービス①「介護福祉士養成課程の役割」
- 地域福祉と福祉サービス②「災害時対応の役割」
- 地域福祉と福祉サービス③「災害時対応の役割」
- 地域福祉と福祉サービス④「災害時対応の役割」
- 地域福祉と福祉サービス⑤「災害時対応の役割」

評価方法

試験	0	基準・方法
レポート	0	
その他	100	実習報告・演習参加姿勢、授業中課題レポート、授業中のプレゼンテーション2回

教科書等

● 教科書  
・介護福祉士養成課程標準委員会「新・介護福祉士養成課程 ③ 社会と福祉の理解【第6巻】中央法規出版、2,200円・後  
・その他、授業中に適宜紹介する。

参考文献

・介護福祉士養成課程標準委員会「新・介護福祉士養成課程 ③ 社会と福祉の理解【第6巻】中央法規出版、2,200円・後  
・その他、授業中に適宜紹介する。

授業中に欠席した場合は、授業中に適宜紹介する。

DPとの関連を表示

教員免許・保育士・介護福祉士に関連する場合に記載

履修するにあたって望ましい前提や必要な条件があれば記載。  
例1) ○○の単位を修得済みであること  
例2) ○○の内容は学習済みであることを前提に授業を行う

**\* シラバスの様式 (記述の際の留意点)**  
**「何をどう学び、身につけるか」について、**  
 + 学生にとってわかりやすいもの  
 + 学生と担当教員が「共有」できるもの

- ・到達目標の達成度をどうやって評価するかを簡潔に記載
- ・出席はあくまでも評価の前提。出席自体に加点するような記述は避ける。
- ・ただし、実技実習授業やグループワークを取り入れた授業など授業への参加状況そのものが学びの内容となる授業については「実習への参加状況」「チーム作業への協力」などに加点してもよい。

## 2-5. AL (アクティブラーニング)

2. CPの構造化

### \* 取り組みの状況

- ・保育士・幼稚園教諭等(対人援助職)を養成しているため、グループワークやディスカッション等を採用している科目が多い。
- ・学生の興味・関心を引き出すため。
- ・基本的には、各担当者に任せているため、その方法は様々。

### \* 課題

- ・ALの技法・実践を教員間で共有しきれていない。

### 【例】地域福祉論「地域の生活課題と福祉」

#### \* 問題解決型学習

(PBL: Project Based Learning)

- ・河内長野市民大学の受講生と学生が、共にフィールドワーク等を行いながら、市内の生活課題について取り組み、解決策を企画・プレゼンテーションする。

### 【アクティブラーニング】

学生による体験学習や教室内のグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークを中心とするような授業

河内長野市民大学 くらまろ豊本館講座

大学連携講座—大阪千代田短期大学編—

### 地域の生活課題と福祉3

～課題解決プログラムの立案と実践～

- 2018/9/28(金) 「地域支援」とは
- 10/5(金) 「地域課題の分析/プログラム案の検討」
- 10/19(金) 「課題解決プログラムの決定」
- 11/23(金・祝) 「課題解決プログラムの実践1 (進捗報告)」
- 12/21(金) 「課題解決プログラムの実践2 (進捗報告)」
- 2019/1/11(金) 「課題解決プログラムの実践3 (報告準備)」
- 2/3(日) 「プログラムの実践結果の報告」

講師: 青木 淳英  
幼児教育科 介護福祉コース 教員・副校長・学長

受講生と大阪千代田短期大学の学生が一緒に学び、実践するコース講座が新に追加されます。今年度の初めにグループワーク等を通じて、実践する予定で、実践に向けて双方のアイデアや行動力を活かしていきましょう。

【時間】～11月～12月30分  
① 12月30分～12月30分(予定)  
【場所】～10月～12月30分(予定)  
【定員】10名程度(希望者優先)  
【受講料】10,000円(全学一貫)  
【申込】お申し込みは、河内長野市民大学 くらまろ豊本館にて  
【申込】お申し込みは、河内長野市民大学 くらまろ豊本館にて  
【申込】お申し込みは、河内長野市民大学 くらまろ豊本館にて

お問い合わせ・申込先: くらまろ豊本館 事務局 TEL: 0721-54-0001  
〒596-0022 河内長野市河内町7-1 河内長野市民大学河内センター(1F) 3階

## 2-6. 授業の質向上のための取り組み

### \* 取り組みの状況（全学）

- ・授業アンケート（学生向け、年2回：前後期、WEB入力）
- ・授業見学（教員間、年2回：前後期、1週間）
  - 見学報告用紙（フィードバック：参考になった点、提案など）
- ・FD研修会（年2回：8月・2月）

### \* 取り組みの状況（各教員）

- ・各教員が独自に取り組んでいるケースもある。
  - （例）毎回、学生による授業評価&コメント（質問・感想）
    - 次回「リアクションペーパー」で質問・感想に回答
- ・授業評価（理解度の自己評価など）から、必要に応じて前回授業内容の復習等を行う

### \* 課題

- ・授業アンケート結果の取扱い
  - 各教員に任せているため、授業改善に結びついていないケースもある
- ・授業見学
  - 全教員が互いの授業を見学できる機会を確保しきれていない
- ・FD研修会
  - ここ数年、発達障害等、学習活動に困難を抱えている学生が目立ち、その対応に関する研修内容が優先されている

9

## 3-1. APと入試改革

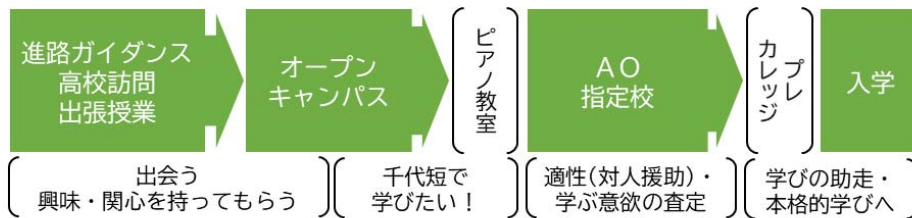
### \* 取り組みの状況

（これまで）受験生を「待つ」「紹介してもらう」



（現在）受験生を積極的に「見つける」「創る」「育てる」方向へ

- ・受験生確保が困難な介護福祉士養成の経験から…
  - 「**幼児教育・保育・福祉に関わる仕事がしたい**」というマインドを持つ生徒を「見つける」「創り・育てる」



### \* 課題

- ・高校訪問：「職員（+教員）⇔進路指導教諭」
- ・進路ガイダンス：「職員・教員⇔生徒」
  - アピール内容・方法、教員の関わり方、知名度の向上
- ・出張授業：「教員⇔生徒」
  - スポットでの関わり から 「連携」へ（ヒントは5年一貫教育？）

10

### 3-2. 高大連携（接続）の取り組み 高短5年一貫①

3-4-2に関する活動



#### \* 取り組みの状況

- ・大阪暁光高校（系列校）2016年度から導入（2クラス63名）  
→ 2020年度に1期生（40名）が短大に入学

#### \* 幼児教育コース（5年一貫）基本的な考え方

- ・高短の5年一貫教育で保育・幼児教育のプロを育てる。  
専門的な学びは短大で。高校3年間は専門的な学びの土台を作る。
  - ①基礎学力・学ぶ姿勢 … 感想を自由に書けるから考察力へ
  - ②コミュニケーション能力・表現力 … 他者を理解し、人間関係を紡ぐ
  - ③人格を尊重し弱者に寄り添う「こころ」 … 社会的視野と人権感覚
  - ④キャリア教育・社会性 … あいさつ、ルール、マナー、身だしなみ等

#### \* 幼児教育コース（5年一貫）への関わり

高校1年生	高校2年生	高校3年生
【幼】観察実習（1日） 【幼】夏祭りボラスタッフ 【幼】音楽会	【幼】夏祭り 道具作り 【幼】夏祭り コーナー担当	・保育実習（2日間） ※他園へ（8月）



11

### 3-3. 高大連携（接続）の取り組み 高短5年一貫②

3-4-2に関する活動

#### \* カリキュラム

黄色マーカー：短大で授業（90分）、\*印：短大教員による授業

*	高校1年	高校2年	高校3年	短大1年	短大2年
応用				保育内容の指導法 など	保育方法論 乳児保育 器楽活用法 保育実習Ⅱ・Ⅲ 教育実習 など
基礎		児童文化*	保育基礎* 現代の福祉* 絵本*	教育課程論 表現技術（ピアノ） 表現技術（造形） 保育実習Ⅰ 教育実習 など	乳幼児理解 子どもの食と栄養 家庭支援論 体育理論・体育技術 保育実習Ⅰ など
入門	保育入門 ピアノ実習	ピアノ* 保育実習演習	ピアノ入門* 保育実習演習	教育学 教職・保育者論 保育内容総論 保育原理 社会福祉 など	

#### \* 現状と課題

- ・授業展開：①授業回数の違い、②授業期間の違い、③評価基準の違い
- ・生徒指導：遅刻・欠席、私語、忘れ物、スマホ
- ・体制：科目全体のコーディネート、カリキュラム検討など

12

(2) 青森明の星短期大学の報告

教育支援部長 高橋 多恵子

青森明の星短期大学・大阪千代田短期大学 相互評価

## 基準Ⅱ-A 教育課程

青森明の星短期大学  
教育支援部 高橋 多恵子

2020年2月14日

### 教育課程のための評価項目

- 1 DPのアセスメントシステムについて
  - ・学習成果の獲得状況に関する量的・質的データの取集と測定方法
  - ・学生の学習成果の可視化の方法
- 2 CPの構造化
  - ・教育課程の編成
  - ・シラバス、AL、授業の質の向上のための取り組み
- 3 APに関する活動
  - ・APと入試改革
  - ・高大連携(接続)の取り組み

## 根拠資料

- 1 学生便覧
- 2 ディプロマポリシーに基づいた「3つの力」の評価の観点と達成水準
- 3 ナンバリング
- 4 カリキュラムマップ
- 5 カリキュラムツリー(保育専攻、介護福祉コース、キャリアビジネスコース)
- 6 シラバス
- 7 授業評価アンケート
- 8 ティーチングポートフォリオ

## 3つのポリシー DP

- 本学は、建学の精神に則り、地域の持続可能な未来に貢献する以下の「3つの力」を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し学位(短期大学士)を授与する  
「生涯学習力」「人間関係力」「地域参画・貢献力」

### あけのほし10パワー

生涯学習力	人間関係力	地域参画・貢献力
<ul style="list-style-type: none"><li>• ①判断力</li><li>• ②専門知識・技能</li><li>• ③意欲・継続力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• ④協働力</li><li>• ⑤コミュニケーション能力</li><li>• ⑥幅広い教養</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• ⑦主体性</li><li>• ⑧社会性</li><li>• ⑨情報活用能力</li><li>• ⑩論理的思考力</li></ul>



## 3つのポリシー CP

- 卒業認定・学位授与の方針に掲げる資質・能力・態度を備えた人材を養成するために、共通基礎科目と専門科目で編成する。



## 3つのポリシー AP(2020年度より)

- (1) 高等学校修了程度の基礎学力を身につけている
- (2) 思考力・判断力・行動力を高めようとする
- (3) 豊かな感性をもって、主体的に自己表現しようとする
- (4) 柔軟性を持ち、多様な価値観を受容しようとする
- (5) 他者との関わりを大切にしながら、協働して学ぼうとする

## DPのアセスメントシステム

学修成果の獲得状況に関する量的・質的データの収集と測定方法  
学修成果の可視化の方法

- ・単位の修得状況
- ・学位の修得状況
- ・資格取得、受賞表彰

すでに可視化  
これからも重要

- ・DPに基づいた「3つの力」の評価の観点と達成水準の策定【資料1】
- ・学修ポートフォリオの活用
- ・卒業論文の水準（ルーブリック）
- ・実習、インターンシップでの第三者評価

可視化に向けて検討中

## CPの構造化

教育課程の編成

- ・科目ナンバリング 【資料2】（科目の体系、レベル、科目間連携）
- ・カリキュラムマップ 【資料2】（各科目のDPとの関連）
- ・カリキュラムツリー 【資料3・4・5】（履修系統図）

## CPの構造化

授業の質の向上に向けた取り組み

- 適切なシラバス作成 【資料6】
- 主体的・対話的で深い学びの実践
- 学生による授業評価アンケート 【資料7】
- 授業改善計画及びティーチング・ポートフォリオの作成 【資料8】

## APと入試改革、高大連携の取り組み

- 入試改革の要点  
「学力の3要素を多面的・総合的に評価」  
(①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 入試区分の名称の変更  
「一般入試」→「一般選抜」  
「AO入試」→「総合型選抜」 ……出願時期9月以降、合格発表11月以降  
「推薦入試」→「学校推薦型選抜」……出願時期11月以降、合格発表12月以降



## 高大連携(接続)の取り組み

- 高校との協定

青森明の星高校(2009年)

青森県立中央高校(2014年)

青森県立中里高校(2015年)

青森県立商業高校(2016年)

青森県立大湊高校(2019年)

青森県立むつ工業高校、田名部高校、大間高校(2019年)

大学の単位取得  
体験授業・交流  
短大生との合同授業  
進路ガイダンス  
先輩による体験談  
学生祭の参加  
他校の高校生同士の交流  
など

### (3) 「A 教育課程」に関する質疑応答

「基準Ⅱ-A 教育課程」質問事項への大阪千代田短期大学の回答

#### 質問1 DP アセスメントシステムについて

貴学の DP について、それを達成するためのアセスメントポリシーについて教えていただきたい。

#### 回答1

本学のアセスメント・ポリシー（学修成果評価方針）は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3ポリシーに基づいて、科目レベル（授業・科目）、教育課程レベル（学科・コース等）、機関レベル（大学全体）の3つのレベルで、学修成果等を測定・評価し、その結果を教育の改善につなげていくこととしている。

科目レベルでは、シラバスの到達目標を踏まえた事前・事後課題や小テストの実施、レポートや作品制作などの評価を教員から学生にフィードバックすることで、日常的に学習成果を計測できるよう努めている。この取り組みによって、学生・教員の双方にとって PDCA サイクル（※学生は半期ごとに、目標設定（Plan）－実行（Do）－検証・評価（Check）－改善・課題設定（Action）を行う。この PDCA サイクルを意識することによって、学生自らが学習成果を検証・評価し、次の段階の学びに向けた目標設定が可能になる）を意識した授業展開が可能となり、教育の質の向上につながると考えている。科目レベルにおける査定の手法は、社会的要請や学生の変化等を考慮し、教務委員会が中心となって点検・見直しを行いながら進めている。

教育課程レベルでは、学則第14条や「試験と成績評価に関する規程」にあるように、半期ごとに個人の成績評価や GPA（Grade Point Average）で行うことに加え、授業アンケートでも行っている。授業アンケートは半期ごとに実施し、教務委員会においてその結果をまとめ、科目担当教員に通知している。各教員はそのフィードバックを受けることで、自らの授業の点検と評価を定期的に行っている。

機関レベルでは、最終的な学習成果の査定は、卒業時の保育士・幼稚園教諭、介護福祉士などの資格・免許取得の有無や就職状況によっても行うことができると考えており、高等教育・専門職養成機関として求められる到達目標や学習成果まで学生を導くことができたかを教員が評価・検証する上でも有効であり、そうした評価・検証を経て、今後の授業内容や教授方法を見直し、改善するよう努めている。

以上のような3つのレベル（科目・教育課程・機関）での PDCA サイクルを活用した改善活動は、教育の向上・充実のために重要であり、全学的に取り組む必要があると考えている。教育の質の保証としては、科目レベル、教育課程レベル、機関レベルという3つのレベルを設定し、それぞれで実行・点検しているが、課題もある。特に、教育活

動の形で学生と直接関わる科目レベルにおいては、各教員が到達目標を踏まえた評価を学生に確実にフィードバックできているか、PDCA サイクルの意識を持てているかについて、十分な確認が出来ていない。学内 FD 活動などにより、非常勤講師を含む全教員が確実に実践できる力量を具えることが必要である。

## 質問2 量的・質的データの収集と測定方法について

プレゼン資料の2ページ目「量的・質的データの収集と測定方法」について、授業科目のテストやレポート、作品などの成績評価（直接評価）が記載されている。

その他に授業を通して学生が自己評価・振り返りなどを行う間接評価に関する取り組みについて、データを収集し測定しているものがあれば教えていただきたい。

## 回答2

「授業アンケート」の内容に、「この授業に対するあなた自身について」という項目を設け、5段階で自己評価・振り返りを行えるようにしている。各授業の平均値等を出し、教務委員会においてその結果をまとめ、科目担当教員に通知している。

※「この授業に対するあなた自身について」の評価項目は、後述（質問3の回答欄）の通り。

## 質問3 学生の学習成果の可視化の方法について

「授業アンケート」の内容と実施の方法、さらに結果の活用について教えていただきたい。

## 回答3

「授業アンケート」は、正式には「学生による授業評価アンケート」という。この授業評価調査は統一様式であり、評価とともに、個々の教員に対する意見や要望も自由記述で記入できるものになっている。集計作業の手間を省き、早く集計結果を公表するために、調査はコンピュータ室、もしくは学生各自のスマートフォンで、当該講義の時間帯やゼミナールの時間帯を活用して、学生一人ひとりが無記名で記入するものとなっている。

内容は、下記の通りであり、5段階評価で行う。

### 1. この授業のねらいについて

- ①専門職としての情熱・使命感、責任感を身につける。
- ②専門的知識・技術を習得し、実践力を身につける。
- ③課題探究能力を持ち、自ら解決しようとする姿勢を身につける。
- ④専門職として支援すべき人びとの人権を尊重する心と体を身につける。

- 2. 教員の教え方について
  - ①教え方がわかりやすかった。
  - ②声をはっきりしていて聴きとりやすかった。
  - ③私語など授業を妨げる行為に対してきちんと対応していた。
  - ④学生の質疑応答に応じる姿勢があった。
  - ⑤学生の立場が尊重される授業運営だった。
  - ⑥板書、配布資料の使用が適切だった。
  - ⑦映像資料、実験器具、実習設備などが効果的に使われていた。
- 3. この授業に対するあなた自身について
  - ①きちんと出席した。
  - ②私語を控え、勉学に集中した。
  - ③ノートをとるなど、積極的に学習した。
  - ④予習や復習をして、授業を理解するように努めた。
  - ⑤わからないことについては、積極的に質問した。
  - ⑥この授業を通して、成長した部分がある。
- 4. この授業に、全体として満足できた。
- 5. この授業について、意見などがあれば、自由に記述してください。

集計結果は、すべての教員に公表され、次回授業の改善に役立つようになっている。教務委員会ではこの調査結果に基づきカリキュラムの見直しや授業内容の検討を行い、またゼミやクラスにおける学生支援にも活用されている。

#### 質問4 就職先からのコメントについて

卒業生に対する就職先への意見聴取について、どのような内容・方法で実施しているか。またその結果をどのように活用しているか教えていただきたい。

#### 回答4

毎年4～6月にかけて、実習・キャリアサポート室長が、前年度卒業生の就職先（幼稚園、保育園、こども園）を訪問し、理事長や園長などと懇談している。その際に、卒業生の働きぶり（知識、技術、子どもや保護者との接し方、同僚との人間関係など）を聞き取り、同時に卒業生の在学時の様子も話している。また、保育・幼児教育現場の実態や、現在、保育士・幼稚園教諭に求められている能力、本学への要望なども合わせて聞き取っている。

聞き取った内容は、報告書にまとめられ、室長が学科会議で報告される。学科では、教育活動やカリキュラムの改定の際にそれらの内容が活用されている。

## 質問5 クォーター制の導入について

クォーター制導入の背景について、また現状及び課題について教えていただきたい。

## 回答5

クォーター制の導入の背景として、「育てたい学生像」「学生の自ら学ぶ姿勢」を養うために、短期大学の授業をどう展開していくか、が検討され、その授業改革（教育課程改革）のひとつとして、「クォーター制の導入」があった。

ここ数年、教員の入れ替わりがあり、教員間であらためて「育てたい学生像」を確認する必要があった。また、近年の本学学生状況では、大学でありながら「自ら学ぶ」姿勢が年々、希薄になっている。さらに、現状のカリキュラムでは、連日1コマも空きの無い状態であり、学生が「自ら学ぶ」時間と余裕すら生み出せていないのではないかと懸念もあった。

### 【育てたい学生像】

「子どもから学び、自らが気づき、表現力豊かに育つ学生～『幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿』を育てられる保育者に～」

- ・授業でも、授業以外の様々な場面で「気づき」のできる学生の養成
- ・「人を思いやる心」「気づきから生まれる、今この場で必要とされていること」を自分で察することのできる学生の養成
- ・専門的知識、技術の学習を通して、豊かな「表現力」を身につけた学生の養成
- ・幼稚園、保育園とも連携し、「子どもから学ぶ」機会を大切にする養成
- ・上記の目標を達成するためには、社会人としての基礎力は必須

こうした課題を学科で議論した結果、「授業改革」の内容として下記4点に整理された。①演習科目を8コマにて行う、②クォーター制を導入する、③恒常的に「子ども」から学ぶ機会の創出（付属幼稚園、保育園を持っている強みを活かして、ゼミナールでの交流・研究・実習指導の授業に見学・観察の機会を組み込む）、④社会人基礎力のための授業。

クォーター制については、導入時期を2020年度とし、19年度入学生にも一部適用することになっている。日程としては、春期：4/6～5/30、夏期：6/1～7/17、秋期：9/14～11/6、冬期11/9～1/8を予定している。20年度は、試行的、段階的に開始するため、「セメスター制を2期に分割した形態」で行う。春期（第1期）で行う場合、講義科目であれば、1週間に2回授業実施となる。具体的には、非常勤講師を中心に、セメスター制（クォーター2期分）で実施する、クォーター制で行う科目は講義系の8科目を予定（保育原理、子ども家庭支援論、社会福祉、子ども家庭福祉、教職・保育者論、乳児

保育Ⅰ、教育課程論、社会的養護)、クォーターで行う科目の試験は、前期・後期の試験期間で行うことになっている。

クォーター制導入のメリットとしては、1年を4期に分けて、学生が授業科目を短期間で履修することである。1期はほぼ2か月で授業が完結するため、学生は集中して学習することができ、「何について専門的に学んでいるか」を理解しやすいことである。特に本学の場合、複数科目を同じ教員が担当していると、学生は教授内容が混乱し、科目ごとの理解に戸惑っている様子も見られるため、その点に効果的に働けばよいと考えている。一方、デメリットとしては、講義科目は週に2回、15回授業（演習科目が8回）で短期間に授業を行うため、連続の欠席者などは（授業数1/3の欠席超過が増える可能性があることである。これらを踏まえて、導入における課題として、欠席超過への対応、学生への周知方法（クォーター科目、セメスター科目の混在）、授業方法の工夫（課題の出し方など）、短期間で学ぶことでの効果（知識の定着や、技術の習得の度合い）の検証（検証方法も含む）があり、FD活動等を通じて議論・対応していく予定である。



## 「基準Ⅱ-A 教育課程」質問事項への青森明の星短期大学の回答

### 質問1 DP アセスメントシステムについて

「実習・インターンシップでの第三者評価」とは、どのような構想か。

#### 回答1

実際の実習先やインターンシップ先からの評価のことである。第三者としたのは、教員でも学生でもないからである。

### 質問2 CPの構造化（授業の質の向上に向けた取り組み）について

「主体的・対話的で深い学びの実践」の具体例、教員間での実践の共有はどのように行っているのか。

#### 回答2

各授業で必ず実践することにしており、事例検討・グループワーク・フィールドワークなどが多く実践されている。複数教員で担当する科目については授業の検討などを通して共有がされており、また学内FDでの報告を通して共有がされている。

### 質問3 「ティーチング・ポートフォリオの作成」について

その活用方法は、どのようなものか。当該教員個人での自己改善に用いるのか、教員間で共有するのか。共有するとすればどのように共有しているのか。教員評価に用いることはあるのか。

#### 回答3

内容は簡略化したものだが各学期末に作成することで、教員個人が振り返り自己改善を行い、授業の質の向上を目指している。教員間で共有することはないが、教育支援部で内容を見ている。学長による教員評価に用いることになっている。

### 質問4 「高大連携（接続）の取り組み」について

系列校と公立校で、協定内容（連携方法など）に違いはあるのか。6校との協定によって、学生確保面でどのような成果が得られているのか、また青森明の星高校との取り組み内容や成果、課題を教えてください。

#### 回答4

違いはなく、各高校や地域のニーズに合わせての取り組みをすることとしている。学生確

保だけが目的ではなく、高校生のキャリアに対する視野を広げることや地域のニーズに合わせた取り組みを通しての地域貢献も目的であり、結果学生確保につながっている部分はある。

明の星高校との連携は、入学前に教養科目の1つである情報関係の科目について科目等履修生として認め、2月に集中で履修している。専門科目に関する取り組みは行っていない。

**質問5 「ディプロマポリシーに基づいた3つの力の評価の観点と達成水準」について**

今後の活用方法などについて、教えていただきたい。

**回答5**

周知を徹底し、学生においては、現状把握や振り返り、また学期ごとの目標を考える際になどに活用していきたい。教職員においては、常勤はもちろん非常勤も含め共通の認識を持ち、授業や学生の指導を行えるようにしたいと考えている。

## 5. 基準Ⅱ「B学生支援」における点検・評価

### (1) 青森明の星短期大学の報告

学生支援部長 木戸 永二

青森明の星短期大学・大阪千代田短期大学 相互評価

## 基準Ⅱ-B 学生支援

青森明の星短期大学  
学生支援部長 木戸永二

2020年 2月14日

### 学生支援のための評価項目

- 1 学習支援のための環境整備
  - ・学習環境の整備
  - ・課外活動、地域貢献、ボランティア活動の促進
- 2 学生生活の充実にに向けた組織的な支援体制
  - ・学生支援のための個人情報記録ツールと相談体制
  - ・学生の多様なニーズへの対応と満足度の向上のために
  - ・多様な奨学金及び学内ワークスタディの活用状況

1

2

### 根拠資料

- 1 2018年度 短期大学生調査アンケート結果(2018年11月実施)
- 2 2019年度学生生活に関するアンケート調査(2019年7月実施)
- 3 2019年度学生便覧
- 4 2019年度しんまちキャンパス講座案内
- 5 2019年度出前講座一覧
- 6 法人奨学金一覧
- 7 2019年度ナーサリールーム使用状況
- 8 学校案内
- 9 募集要項
- 10 学生振り返り記録システム  
など

2

3

## 基準Ⅱ-B-1 「学習支援のための環境整備」 評価の観点

評価の観点	根拠資料
(1) 学習環境の整備に向けた取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度 短期大学生調査アンケート結果</li> <li>・2019年度学生生活に関するアンケート調査</li> <li>・2019年度ナーサリールーム使用状況</li> </ul>
(2) 課外活動(取り組み)、地域貢献の促進のために地域・社会の地方公共団体、企業(等)、教育機関及び文化団体等と連携している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度しんまちキャンパス講座案内</li> <li>・2019年度出前講座一覧</li> </ul>
(3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域・社会に貢献している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生振り返り記録システム</li> <li>・地域ボランティアワーク シラバス</li> </ul>

## 学習環境整備にむけた取り組み ①

- ・ **チューター制度**  
一教員が少人数(6~10人)担当制で学生をバックアップする
- ・ **「学生振り返り記録システム(ポートフォリオ)」**  
自己目標の設定、授業資料の保存及び提出が可能
- ・ **「学生管理システム」**  
学生との面談記録を保存

- 1) チューター制度により学生の状況を把握+学習目標到達に向けてのサポート
- 2) 学生管理システムで学生の問題点を共有し、教員間の連携で学生の学びをサポート

## チューターごとのかかわりの様子



## 学生振り返り記録システムなどの画面

タイトル	実施日	更新日時
森岡	2018-12-15	2019-02-05 11:22:43
稲垣悠	2018-06-17	2018-12-20 10:53:08
松本北の藤原の松原ランディア	2018-09-20	2018-09-20 09:38:03
保原成ランディア	2018-09-04	2018-09-20 09:34:23

タイトル	更新日時
卒業論文	2019-12-13 11:36:53
教職実践実習(幼稚園) (配布の連絡)	2019-12-12 16:48:41
教職実践実習(幼稚園) おたより	2019-12-11 15:38:02
保育科調査報告	2019-12-11 14:37:03

名前	■■■■■■	ふりがな	■■■■■■
出身校	■■■■■■	入試科目	■■■■■■
入学年度	2019	卒業年度	■■■■■■
1年次ユーザー名	木戸 永二	1年次成績(単位)	■■■■■■
2年次ユーザー名	■■■■■■	2年次成績(単位)	■■■■■■
取得予定資格	幼稚園教諭二種 保育士 児童学生二級指導員 レクリエーション・インストラクター ピア・ヘルパー 情報処理士 教育カウンセラー種		
特記事項	幼児体育、リトミック		

◆実習記録 実習記録新規登録

実習区分	実習先	登録日時
	大塚幼稚園	2019-12-12 11:14:35

◆個人面談記録 個人面談記録新規登録

実施日	面談区分	面談者
2020-02-04	進路 学業	木戸 永二
2020-01-08	進路 学業 学校生活一般	木戸 永二

◆進路記録 進路記録新規登録

区分	志望先・受験先	調査日・受験日	進路状況

## 学習環境整備にむけた取り組み ②

### ・ICT(情報通信技術)の活用

全学生が「ロイロ・ノート」(アプリ)をインストールし、各授業にて資料の閲覧、意見交換、プレゼン資料の作成などで活用。タブレット端末を学内に充電待機させ、必要があれば授業で貸します。



### 学習環境整備にむけた取り組み ③



9

10

### 学習環境整備にむけた取り組み ③



#### ○感想

・約5時間、ねぶたをひいて、私は水とか小さいのをひくと思っていたけどまさかの中型ねぶたでとてもびっくりしました。いざおしてみるとすごく重くてすごく大変でした。でもひいているときに見ている人が、「がんばれー！お疲れ様ー！」などと言ってくれてとても頑張ることができました。女の子が中型ねぶたを引けるというのはあまりないのですごくいい経験になりました！楽しかったです!!!

10

11

### 「学習支援のための環境整備」 現状について③

#### ・あけのほしナーサリールームの開設

職業訓練性の受け入れや社会人学生の学び直しに対応するための施設。本学学生及び教職員が活用できる「一時預かりを中心とした企業内保育所」の形態をとり、子どもを持つ学生へのサポートを行っている。

・授業で作成した遊具をナーサリールームで使用してもらうなど、授業と連携した保育実践の場にもなっている。

11

12





## 「課外活動、地域貢献の促進のための取り組み」 現状について①

- ・地域連携センター  
青森県内各地域  
近隣商店会の祭りの運営維持に貢献  
青森市内中心部の「しんまちキャンパス」の企画、運営(資料4)
- ・生涯学習センター  
学内で行われる様々な講座や  
各教員による出前講座(資料5)など
- ・教員独自の研究活動により派生する地域文化活動(資料6)

多様な活動により、ディプロマポリシーで定める  
「生涯学習力」「人間関係力」「地域参画・貢献力」を養う場となっている。

## 地域連携センターの活動①



## 地域連携センターの活動②



15

青森明の星短期大学 しんまちキャンパス

5/13日スタート!! 2019年度 講座のご案内

<p>01 爽やかな空を 楽しんでお楽しみしよう!</p> <p>講師：山本美津子</p>	<p>03 子育て講座</p> <p>講師：山本美津子</p>
<p>02 子ども発達障害講座</p> <p>講師：山本美津子</p>	<p>04 子育て講座</p> <p>講師：山本美津子</p>
<p>03 キッズヨガ</p> <p>講師：山本美津子</p>	<p>05 しんまち英語</p> <p>講師：山本美津子</p>

参加は無料です。

16

## 教員の研究活動によるもの



16

## 「課外活動、地域貢献の促進のための取り組み」 現状について②

### ・学友会執行委員会

本学学生による自治組織「学友会」の  
サークル活動、行事の企画運営などを行う。

多様な活動により、ディプロマポリシーで定める

「生涯学習力」「人間関係力」「地域参画・貢献力」を養う場となっている。

17

18

## ボランティア活動等 現状について①

### ・様々なボランティア活動

今年度4月～現在まで、延べ120人以上の学生が20箇所以上でボランティア活動を行なっている。

- ①地域、施設の夏祭りやイベントの補助
- ②障がい者による技能競技イベントの補助
- ③子育て支援活動の補助
- ④子ども向けの文化的活動など



18

## ボランティア活動等 現状について②

### ・授業科目「地域ボランティアワーク」の存在

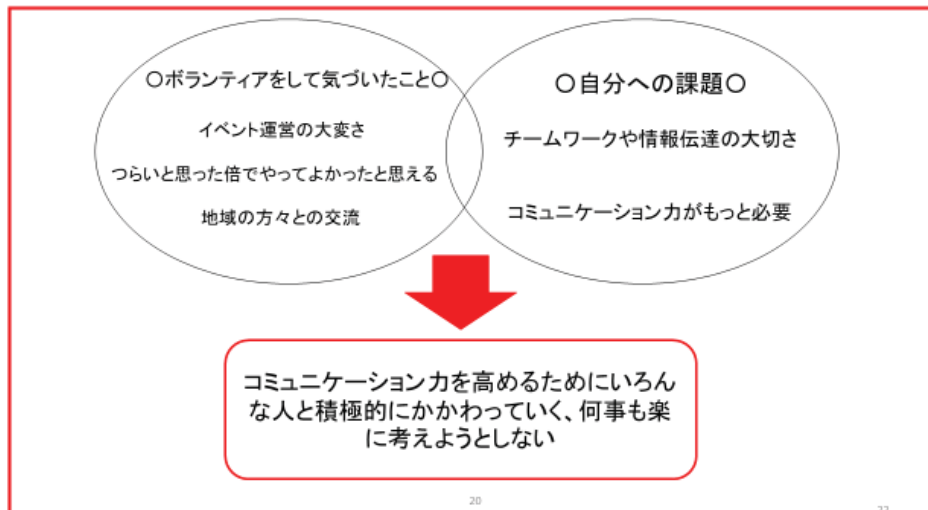
ボランティア活動の入り口となるべく

- ①ボランティア活動の意義とは
- ②活動の探し方
- ③活動する際の留意点
- ④活動を通して得た経験を整理、発表 などを行う。

19

20

## 地域との交流から学んだこと



## 基準Ⅱ-B-2「学生生活の充実に向けた組織的な支援体制」 評価の観点

評価の観点	根拠資料
(1) 学生支援のための個人情報記録ツールと相談体制を整え活用している。	1 2018年度 短期大学生調査アンケート結果 2 2019年度学生生活に関するアンケート調査 3 2019年度学生便覧 10 学生振り返り記録システム
(2) 学生の多様なニーズへの対応と満足度の向上のために定期的な聞き取り調査などを行っている。	1 2018年度 短期大学生調査アンケート結果 2 2019年度学生生活に関するアンケート調査
(3) 多様な奨学金及び経済的支援策を講じ、学生の経済的な負担軽減のためにとり組んでいる。	6 法人奨学金一覧 8 学校案内 9 募集要項

## 個人情報記録ツールと相談体制 現状について①

### ・チューター制度と学生振り返り記録システムの活用

学生が常に教員に相談できる体制作りと、学生との面談記録の情報共有ができるようになっている。

### ・学生相談室の活用

専任のスクールカウンセラーと対面して相談ができる「相談室」を学内に設け、週に一度開室している。より専門性、秘匿性が必要とされる相談事項に対応している。今年度の相談件数は30件以上であり延べ37人が利用している。利用者からの満足度も高い(資料1 2学生相談室についての項目より)



## 学生ニーズへの対応と満足度向上のための調査 現状について①

・学生のニーズへの対応と満足度の向上に向けて学生生活のアンケート調査を大きく年2回行っている。

7月 学生支援部による調査(資料1)

11月 短期大学生調査(短期大学基準協会)による調査(資料2)。

・随時「みんなの声」という意見回収箱を学内に設置。匿名の投書を受け付けている。

23

25

## 奨学金及び経済的支援策 現状について①

・奨学金に関する情報提供

学生便覧による情報提供及び学内掲示、チューターを通じての呼びかけ

・本学独自の奨学金(資料3 P68～70)、本学との提携企業による奨学金(資料8)、それ以外の奨学金(日本学生支援機構など)などの、何らかの経済的な支援を受けながら本学に在籍している学生は全体の約半数に上る(資料9)。

そのうちの4分の1が本学独自あるいは本学と提携している企業による奨学金の利用者である。

24

26

## 奨学金及び経済的支援策 現状について②

・奨学金に関する情報提供

学生便覧(P68～70)、学内掲示、チューターを通じての呼びかけ

【本学独自の奨学金】

あけのほし奨学金、聖母被昇天修道奨学金

【提携法人・企業による奨学金】

青森県内の12団体と提携

25

27

## 奨学金及び経済的支援策 現状について②

- 経済的な支援を受けながら本学に在籍している学生  
全体の約半数に上る。そのうちの4分の1が本学独自あるいは本学と提携している企業による奨学金の利用者である。

26

28

## 奨学金及び経済的支援策 現状について③

- 学内ワークスタディについて  
教育的にも意義があると認めた活動をアルバイトとして学生に発注し、それに従事することで学校から給料を受け取るシステムである。その内容は清掃業務、イベントの運営補助、高校生との交流や、ワークショップの企画など多岐にわたっており、2019年の学内ワークスタディに、延べ400人の学生が従事している。
- しかしその一方で、仕組みや参加方法について理解できていない学生も少なくないようである(資料1 学内ワークスタディについての項目)。

27

29

## 「学生支援」課題について①

- 学習環境整備のための相談体制  
(チューター制度、相談室、ナーサリールームなど)
  - 学修状況把握の取り組み  
(チューター制度、学生振り返り記録システム、ロイロノートの活用など)
  - 経済的な支援の取り組み  
(各種奨学金、学内ワークスタディ)
- ↓
- 多面的に学生支援を行う取り組みを行っており、学生満足度の高さ(資料1)や学校の大きな魅力の一つに奨学金制度の充実が挙げられている点(資料2)からも、取り組みの手厚さが伺える。

28

30



## 「学生支援」 課題について②

【課題】取り組みによる恩恵を学生にわかりやすく還元できているか？

〈課題解決のために〉

- 1) 学生への丁寧な周知と説明
- 2) 窓口の簡略化
- 3) 教職員の横の連携による情報共有の強化

※学内ワークスタディの認知不足と従事学生の偏り(資料1 学内ワークスタディの自由記述より)などにもその必要性が現れている。

29

31

## 「学生支援」 課題について③

3) 教職員の横の連携による情報共有の強化

ハード(大学の規模や人員)に対してソフト(各種取り組み)が大きくなるようとしている。ソフトを運用していく処理能力が人員(教職員)であるなら...

処理能力を下げないための連携と情報共有が必要

- 1) 課題に対する当事者意識
- 2) 業務内容の見直しや改善を常に意識する

30

32

## (2) 大阪千代田短期大学

学生支援委員会委員長 本田 和隆

大阪千代田短期大学  
OSAKA CHYOTEN JUNIOR COLLEGE

大阪千代田短期大学・青森明の星短期大学 相互評価

基準II-B 学生支援



大阪千代田短期大学 本田和隆

2020/02/14

### 学生支援のための評価項目

- 1 学習支援のための環境整備
  - ・学習環境の整備
  - ・課外活動、地域貢献、ボランティア活動の促進
- 2 学生生活の充実に向けた組織的な支援体制
  - ・学生支援のための個人情報記録ツールと相談体制
  - ・学生の多様なニーズへの対応と満足度の向上のために
  - ・多様な奨学金及び学内ワークスタディの活用状況

### 1-1. 学習環境の整備

**ゼミ担当制**

- ゼミナールI・IIとして1・2年生合同で実施  
○1回/週
- 学生生活に関することは全てゼミ担当が中心となって担う。
- 1回生8名、2回生8名  
合計16名程度  
○1・2回生合同で実施

入学  
入学支

○日常的に学生の状況の交流  
○各々の職務を通じて学習支援

★ 学生支援委員会

- 入学までの情報提供  
○プレカレッジなど
- 入学オリエンテーション  
○科目選択のガイダンス  
○補習授業など  
○学生生活に関わること
- 進路面談  
○就職ガイダンス  
○キャリアデザイン  
○実習に関わること

## 1-2. 学習環境の整備



### 学生生活支援委員会の組織（2018年度）

- 教員4名  
（委員長1名）  
（副委員長1名）
  - 学務課参事1名
  - その他  
学生相談室（1回／毎週）  
保健室
- 定例会議  
第1水曜日／毎月
  - コース会議や教授会  
に提案・報告

## 学生相談室の利用状況 ※月4回程度



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2015年度	1年生	0	1	0	0		0	0	1	0	0			56名
	2年生	6	2	2	18		3	11	6	2	4			
2016年度	1年生	5	17	12	8		8	4	9	2	2			72名
	2年生	2	3	0	0		0	0	0	0	0			
2017年度	1年生	5	1	0	3		0	3	3	1	0			36名
	2年生	2	1	1	0		0	9	1	4	2			
2018年度	1年生	7	4	2	3	1	2	5	2	2	5			36名
	2年生	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0			

2018年度は、のべ36名の学生が利用

## 保健室の利用状況



2014												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
22	23	34	51	1	36	58	42	31	15	4	2	
												319
2015												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
19	20	20	36	2	12	30	19	23	20	2	0	
												203
2016												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
19	20	20	36	2	12	30	19	23	20	2	0	
												203
2017												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
9	7	7	18	1	7	24	19	20	17	6	2	
												137
2018												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
11	17	9	30	0	10	21	14	6	12	0	1	
												131

2018年度は、のべ131名の学生が利用

### 1-3. 学習環境の整備



#### 学生生活支援委員会の協議事項

- 自治活動に関する協議と助言
- 奨学生の選考
- 学費の減免・延納・分割等に関すること
- 学生の福利厚生
- 学生相談室の運営に関すること
- その他学生の生活全般に関すること

### 1-4. 学習環境の整備



#### 学生支援委員会の年間スケジュール

	3月	4月	5月	6月	7月	8月
前期	●学生支援委員会 *卒業を祝う会 *新入生歓迎会	●学生支援委員会 ■交通安全講習会 *わくわく夕食会	●学生支援委員会	●学生支援委員会	●学生支援委員会 ●学生相談室との意見交換 ●提携マンション意見交換 ■危険薬物乱用防止講習	●学生支援委員会 ●障害学生支援研修会
	●学生支援委員会	●学生支援委員会	●学生支援委員会 *学園祭	●学生支援委員会 *お楽しみ会	●学生支援委員会	●学生支援委員会
後期	●学生支援委員会	●学生支援委員会	●学生支援委員会	●学生支援委員会	●学生支援委員会	●学生支援委員会

### 1-5. 課外活動（取り組み）



※主に学生自治会が組織運営し、活動

○クラブ・サークル活動・・・体育・文化系

○新入生歓迎会・・・学生同士が交流するレクリエーションやクラブ紹介など

○わくわく夕食会・・・新入生向けに夕食会を実施

○大学祭（小山田祭）・・・学習成果の発表・作品展示、舞台発表、模擬店

○お楽しみ会（クリスマス会）

○卒業を祝う会

○学生自治会  
毎週水曜日に会議

○大学との関わり  
学生生活支援委員会と連携・協力



新入生歓迎会の様子



わくわく夕食会の様子



大学祭（小山田祭）の様子



お楽しみ会の様子  
（クリスマス会）



音楽療育の発表の様子



総合表現発表の様子



## ボランティア活動の様子



## 河内長野市市民まつり

○高野山大学と協働  
でお茶席を出店



## 地元老人会のボランティア活動



## ボランティア活動からの学び①

2. ボランティア先の名称: 放課後児童クラブ 実習先: その他  
 種別: 保育園・幼稚園・こども園・施設(放課後児童) 日時: 8月23日(厚) 9:00~17:00  
 内容: 小学生の宿題学習のサポートや保育  
 学んだこと: 今日は初日に比べ、一人一人の言動を観察することができ  
ました。3年ほど以上になると、相手の気持ちに配慮した  
発言や行動をしていたり、自己抑制ができてくる場面  
が何回も見られました。また、保育者が子どもたちのために  
かわりにトイレに行ったしじやけそ、76-77など玩具を作  
っていたことが印象に残っています。

## ボランティア活動からの学び②

1. ボランティア先の名称: 乳児院  
 種別: 保育園・幼稚園・こども園・施設(乳児院)  
 内容: 0~1才児とふれ合い、共に遊  
 学んだこと: 何らかの理由で親子が  
施設の職員と生活を共にしている。一番大切にしたい  
いけいけの子どもと職員の強い愛着関係だ  
ということを  
学びました。また、新生児のだ  
お風呂の入れ方も学ぶことがで

## ボランティア活動からの学び③

6. ボランティア先の名称: 保育園 実習先: その他  
 種別: 保育園・幼稚園・こども園・施設( ) 日時: 9月10日(火) 8:30~16:00  
 内容: こま組(2歳児)に入れさせてもらい、1日の流れを把握  
 学んだこと: マリアプロック遊びをした時、少長(プロック)を先生(保育者)と  
相対向(お名前)と聞いて、お名前もお名前と聞けること知った。  
ピアノが使われるに慣れてきたけれど、つたえらとこは  
作ったり、リズムにのたりそれそれ音楽を楽しんでいた。給食の  
時、1人1人にエプロン( ) があったので、大石( )を  
着て、飯( )を食べて、( ) 1人1人、給食はどの部屋の中に( )が  
入っているお皿を置いて、テーブルの周りがお皿の( )、( )と( )の( )  
 まとめ:  
今回、保育者が中心の役割をこなす子どもたちの察知力に驚かされ  
ました。子どもたちが、お名前を改めると、そのお名前という役割は負  
担はしているから、子どもたちがわかりやすく理解できた。筆者がそ  
れからとばかり、また、子どもが精通が必要だとは感じました。





## 2-1. 学生支援のための個人情報記録ツール



- 毎月行われる委員会議事録に記載  
⇒学科内の会議において情報共有を図る
- 個別の対応については、面談記録などに記載し共有を図っている。
- 学生カルテ**・入学時から卒業までの学生の情報を記載  
(エクセルの共有ドライブ)

学生の基本情報が記載

その他、てんかん発作や障害など学校で把握しておいた方がよい内容について記載

裏面にも記入欄があります



○学生カルテ

基本情報

基本情報	
学号	顔写真
コース	
学号番号	
氏名	
ふりがな	
性別	
生年月日	
年齢	
ゼミ	
クラス	
連絡先	
住所	
携帯	
電話	
保護者	
保護者名	
保護者住所	
保護者携帯	
備考	
奨学金等	
入学時情報	
入試種別	
高校府県名	
高等学校名	
平均評定	
OC参加	
プレカル参加	
卒業時情報	
就職・進学先	
職種	
取得資格	
備考	



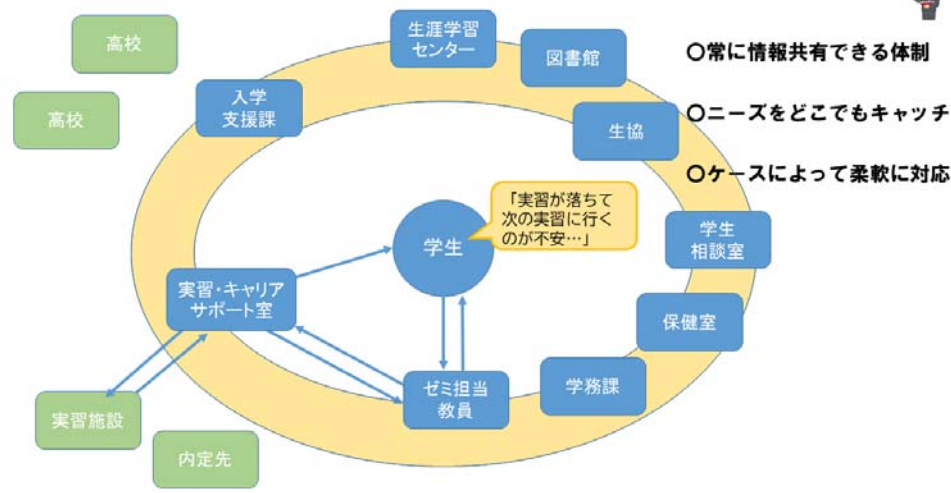


## ○ 学生カルテ

### 就職活動記録

記入日	施設(会社)名	法人名	施設種別	所在地	対応者名・部署	活動状況	活動の日	本人区分	帰国関係者	受験の意向	その他(留意事項、備)
2018/03/08							2018/03/08	自己採点			
2018/03/22							2018/03/22	自己採点			
2018/03/25							2018/03/25	自己採点			
2018/07/20							2018/07/20	自己採点		検討中	
2018/07/20							2018/07/20	自己採点		検討中	
2018/07/20							2018/07/20	自己採点		受験しない	
2018/07/20							2018/07/20	自己採点		受験しない	
2018/07/20							2018/07/20	自己採点		検討中	
2018/07/20							2018/07/20	自己採点		検討中	
2018/07/20							2018/07/20	自己採点		検討中	
2018/08/22							2018/08/22	自己採点		検討中	
2018/08/29							2018/08/29	自己採点		検討中	
2018/08/30							2018/08/30	自己採点		検討中	
2018/09/04							2018/09/04	自己採点		検討中	
2018/09/21							2018/09/21	自己採点		検討中	
2018/10/10							2018/10/10	自己採点		受験する	10時~作文, 11時~面接
2018/11/05								自己採点			

## 2-1. 学生支援のための相談体制



## 2-2. 学生の多様なニーズへの対応と満足度の向上のために

○防災について

※2018年度  
特に検討された内容

○障害学生支援について

○敷地内全面禁煙について

○ちよたんランチ



## ☆ちよたんランチ



**CHİYOTAN'S Lunch !!**

*delicious!*

本学の学生の多くが卒業後、保育所、幼稚園、福祉施設、介護施設に就職します。それらの施設は、利用者に食事を提供し、生きる・成長することの基本を支え、食習慣・食文化を育成し継承する等、「食事」「食べることを重要なものとす。

子どもたちや、高齢者、障がい者の食生活支援の一翼を担うそのような職業に就く学生のみなさんに対して、大学として食育に関する教育内容の充実を図るとともに、学生のみなさんの食事・食生活充実への一助となるように、4月より試行的に本学の食堂を運営しております生活協同組合とタイアップいたしました。下記のとおり「ちよたんランチ」として、週2回無償で学生の皆さんにランチを提供することに致しました。




**2019年4月～  
週2回無償で学生にランチを提供**

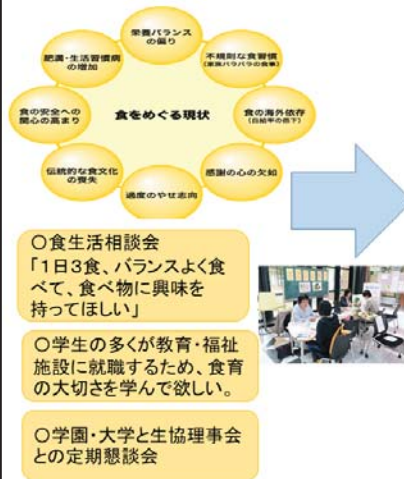
- 運営費
  - ・大学が全額負担
  - ・教育の一環
  - ・経済的支援
- 今後の課題
  - ・後援会などからの支出を検討

### 始まった背景

### ねらい



食育を身に付けた対人援助職の養成



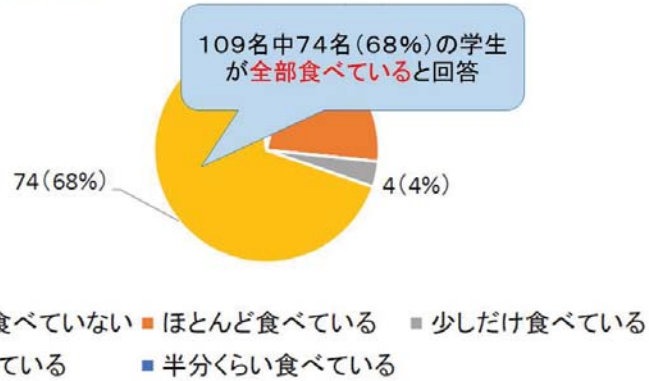
- ・「食」に関する様々な経験を通じて「食」に関する知識と、バランスの良い「食」を選択する力を身に付けること。
- ・誰かと一緒に料理を作る・食事を摂る、季節や地域の料理を味わう、食べ物の収穫を体験する等、このような食育を通じた「環(わ)」を広げること
- ・食べることは生涯続く生活の基本的な営みです。子供はもちろんのこと、年齢を問わず生涯にわたって「食べる力」＝「生きる力」を育むこと

## ☆ちよたんランチの様子



☆ちよたんランチアンケート結果①

質問34 【学生ランチ】残さずに全部食べていますか。



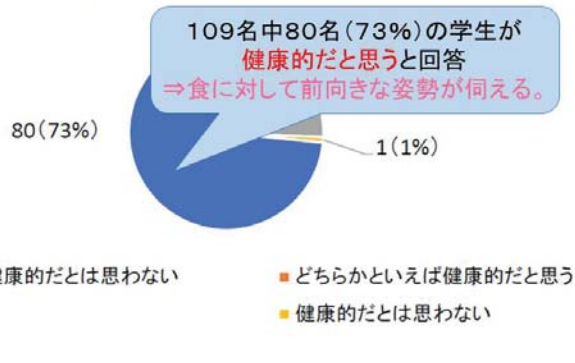
☆ちよたんランチアンケート結果②

質問35 【学生ランチ】質問34で「全部食べている」以外を選択された方に、食べ残す理由をお聞きます。(複数回答可)



☆ちよたんランチアンケート結果③

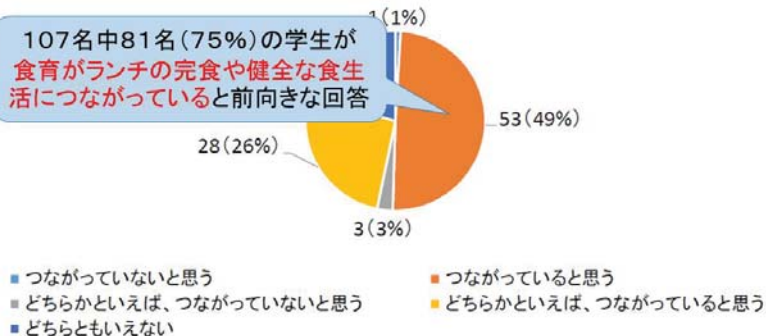
質問36 【学生ランチ】献立(メニュー)は、栄養バランスが良く、健康的だと思いますか。





☆ちよたんランチアンケート結果④

質問37 【学生ランチ】短大の授業で「食育」について学んだことが、学生ランチを完食することや、健全な食生活につながっていますか。



2-3. 多様な奨学金及び経済的支援策について ※学生便覧参照



○ひまわり学業奨励金（本学同窓会） ※後述

○日本学生支援機構奨学金

○介護福祉士等修学資金

○生命保険協会 介護福祉士養成奨学金

○保育士修学資金

○あしなが育英会奨学金

○交通遺児育英会奨学金

○オリコ学費サポートプラン

その他にも・・・

① 入学試験別奨学金

②の千代田学園奨学金との併用はできません。また、入学試験別奨学金については進級時に学業成績等により継続の可否を判断します。

a) 指定校推薦入試奨学金

奨学金	本学の教育理念・方針に共感し、勉学に熱意をもち、経済的に困難をかかえている者に授業料の半額を上限とし、支給する。
給付方法	入学手続時の費用（前期授業料等）から差し引く方法により給付します。

本学が推薦を依頼する高等学校等に募集要項および出願関係書類を送付します。詳しくは進路指導または担任の先生にお尋ねください。

b) AO入試奨学金

合格者全員、前期授業料35万円から20万円免除(1回生前期のみ)。さらに、出願時評定平均値が3.5以上の者は年間授業料70万円の半額を免除(35万円)。授業料半額は2年次審査をへて継続可能。

## ② 千代田学園奨学金

①の入学試験別奨学金との併用はできません。

公募制推薦入試、一般入試の合格者で、経済的な理由により修学が困難な者に対して給付される本学独自の制度です。

※入学試験時面接あり。

奨学金	200,000円を（上限として）入学後給付
採用人数	10名以内
給付期間	1年間
申込み	出願前に奨学生願書等必要書類を入学支援課（TEL：0721-52-6666）まで請求し、入学願書と共に提出してください。 出願時には家計の収入を証明する公的書類や学校長の推薦が必要です。

## ③ 大阪千代田短期大学同窓会「ひまわり学業奨励金」

在学生を対象に、成績優秀でありながら、経済的事情により修学困難な学生を支援する目的で本学同窓会が設けている奨学金制度です。

卒業後の返還義務はありません。

奨学金	15,000円（月額）
給付期間	最長18ヶ月
採用人数	3名以内（書類・面接で選考）
募集	入学年度の9月初旬に学内掲示で公募します。
その他	学業成績等により給付期間が短縮（打ち切り）される場合もあります。その場合も卒業後の返還義務はありません。

## ④ カレッジメイト

入試の種別を問わず、授業料減額の特典を受けることができます。

対象者	本学卒業生・在学生の兄弟姉妹・父母・子女・孫。
特典	50,000円の減額
手続方法	出願前に「カレッジメイト特典 続柄についての申告書」を入学支援課（TEL：0721-52-6666）まで請求し、入学願書と共に提出してください。 ※フレンドシップとの併用はできません。

## ⑤ フレンドシップ

入試の種別を問わず、授業料減額の特典を受けることができます。

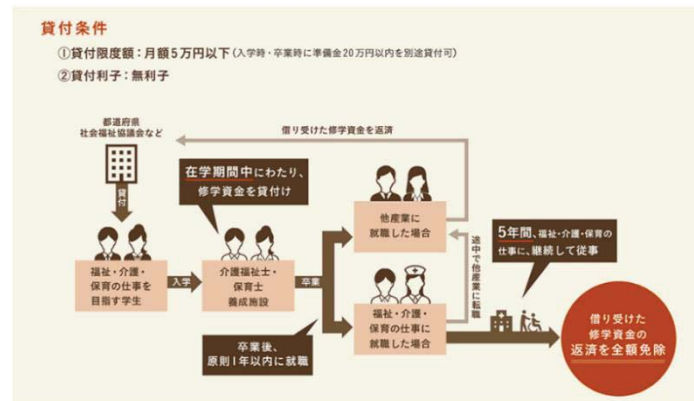
対象者	本学の教育協力事業所（学生の実習を受け入れて頂いている施設・園、及び学生のインターンシップ（就業体験）を受け入れて頂いている企業）などの職員（従業員）等の子女・兄弟姉妹・孫。
特典	50,000円の減額
手続方法	出願前に「フレンドシップ申告書」を入学支援課（TEL：0721-52-6666）まで請求し、入学願書と共に提出してください。 ※カレッジメイトとの併用はできません。

## ⑥ 介護福祉士・保育士修学資金貸付制度

介護福祉士・保育士をめざす学生のために、各都道府県の社会福祉協議会等が実施しています。

ただし、都道府県により、中身が変わっていることがありますので、居住地の社会福祉協議会等にお問い合わせください。

※介護福祉士等修学資金貸付制度（厚生労働省）。



### (3) 「B 学生支援」に関する質疑応答

「基準Ⅱ-B 学生支援」質問事項への青森明の星短期大学の回答

#### 質問1 「チューター制度」について

ゼミナールは行われているのか。ゼミナールが行われているなら、ゼミナールと「チューター制度」の関係性は、どのようになっているのか。(ゼミナールがないなら、ホームルームのような時間はあるのか。) また、「チューター制度」の情報共有の方法はどのようになっているのか。「チューター制度」のメリット、デメリットがあれば、教えていただきたい。

#### 回答1

1 年次からもチューターごとの学生によるグループワークや発表活動がありゼミに近いことが行われている。2 年次からは学生自身の卒論に向けた研究分野によって希望調査をし、その結果によってチューターが変わる。2 年次からはよりゼミとしての性質が強まる。

メリットは学生へのきめ細かい対応が可能であること。全教員が必ず学生と関わることができること

デメリットは教員にきめ細かい対応と幅広い情報収集が求められること。連携の気を抜くと学生指導に差が生じやすくなること。

#### 質問2 「学生振り返り記録システム (ポートフォリオ)」について

学生はどの程度の頻度で内容を更新しているのか。アクセス方法は、スマホ、タブレット、自宅PCでも可能であるのか。(「ロイロ・ノート」は学生の個人スマホで利用しているのか。)

#### 回答2

多くの学生が年間通じて、月に1回程度資料の保存や情報更新のためにアクセスしている。最低でも年間に2回は自己目標更新の機会を授業内で設けている。ポートフォリオについては学内のPCでのみアクセスが可能である。ロイロは学内外問わずいつでもアクセスが可能である。アクセスの際は個人のスマホを使用していることがほとんどである。

#### 質問3 「奨学金制度」について

奨学金制度が充実している。その内容、工夫、獲得方法について、教えていただきたい。

#### 回答3

資料の「学生便覧」、「法人奨学金一覧」をご確認下さい。

提携企業・法人による奨学金については、地域のもつ課題(若年層の人口流出)や各企業の危機感(人材を早期に確保したい)と、本学学生の経済事情とからなる複合的要因が大きい。+αで本学の幅広い地域貢献の成果か。

#### 質問4 「地域連携センター」「しんまちキャンパス」「あけのほしナーサリールーム」に

##### つ いて

運営状況（運営費、教職員の体制、利用料、利用者層・数など）について教えていただきたい。

#### 回答4

地域連携センター：教員2人、事務職員2人による体制。

しんまちキャンパス：教員1人、事務職員1人、本学教員OG2人による体制。講師は非常勤講師や、本学教員OG、保護者会からのつながりなど様々。青森で中心的な存在の書店の4階を無償で提供してもらっている。

ナーサリー：教員1人、保育士1人、保育スタッフ2人による体制。今年度現時点で延べ168人の子どもが利用している。

#### 質問5 学生の自主活動、学友会活動について

学生の自主活動、学友会（学生自治会）活動などは、全国的に低調傾向にある。しかし、貴学は成果を上げておられるが、その要因は何か。教職員の努力や支援、工夫、また課題などあれば、教えていただきたい。

#### 回答5

何をもって成果とするかはわからないが、ありがたいことに執行委員の学生はボランティアにもかかわらず立候補で決まっている。教員との距離感などが関係しているかもしれない。

教職員の努力や工夫：授業の空き具合やスケジュールが専攻、学年によって様々なので、放任せずに連携と情報共有を促すことが重要と考えている。

課題：空き時間が少なく、またタイミングがバラバラなのでクラスなどでの話し合いの場が少なく、結果的に執行委員だけが動いているという事態が起きがちである。

## 「基準Ⅱ-B 学生支援」質問事項への大阪千代田短期大学の回答

### 質問1 学習環境の整備について

「学生相談室」「保健室」の利用状況、教職員の体制等について教えていただきたい。

#### 回答1

学生への様々な対応は、基本的にはゼミ教員が行う、ゼミ制となっている。学生とゼミ教員を中心として、「入学支援」、「学生生活支援」、「実習・キャリアサポート」の3つの柱で支える形をとっている。学生相談室は学生生活支援委員会が担当しており、週1回の相談時間を設けている。学生相談室の利用状況は、のべ36名（2018年度実績）の学生が利用した。保健室も同様であり、事務局職員が兼務している。保健室の利用状況は、のべ131名（2018年度実績）の学生が利用した。

### 質問2 障がい者への支援体制について

貴学は、点字ブロックや車いす対応など障がい者への対応も整っている。さらに「障害学生支援研修会」が8月に行われているが、どのような内容で運営・実施されているのか、またそれによる成果について教えていただきたい。

#### 回答2

資料に記載されている「障害学生支援研修会」は、学生支援機構が毎年行っている研修会であり、当時委員長だった私（本田）が参加した。そこで得た知見を委員会や教授会などで報告し、他の大学の障害学生支援の取り組みについて情報共有を図った。はっきりとした成果は出ていないが、障害学生に対する支援の議論を行い、個別対応を実施している。

### 質問3 学生支援のための個人情報記録ツールについて

「面談記録」「学生カルテ」について書式（内容）や運用の実態について教えていただきたい。また、「学生カルテ」については、入学前から卒業後に渡る個人記録なのか。

#### 回答3

現在、学生の入学後から卒業までの記録として介護コースにおいて試験的に実施している。本学の附属高校からくる学生の情報は高校からの情報を反映できている。その他の学生は、入学時の「学生身上調査書」の情報を反映するようにしている。学生カルテは、教員、学務課、各課長が入力・閲覧が可能になっており、学生の細かい動向を共有・確認している。今後の課題としては、情報の共有範囲をどこまでにするのか、個人情報管理に関することである。幼児教育コースにおいても今後実施することを検討している。

#### 質問4 学生支援のための相談体制について

貴学では、学生のニーズをどこでもキャッチし、常に情報共有できる体制があるが、例えば、「実習・キャリアサポート室」「学生相談室」「保健室」「学務課」など、教職員の連携はどのように行なわれているのか。

#### 回答4

小規模の大学なので、ケースによって関わる教員・職員が柔軟に対応している。教員・職員共に、毎日（朝礼・日々の業務）・毎月（教授会、コース会議、課長会議など）の会議などで情報共有を行っている。学生のニーズをどこでも発見できるようにし、どこでも検討出来るようになっている。

#### 質問5 「ちよたんランチ」について

週2回無償で学生にランチを提供しているが、運営費はどのように工夫しているのか。また、食堂（生活協同組合）に対する学生の満足度についてはどのような状況か、さらに満足度を上げるための具体的な取り組み等があれば教えていただきたい。

#### 回答5

ちよたんランチの運営費は、大学が全額負担をしている。これは、ちよたんランチの趣旨を「教育の一環」、「経済的支援」と捉えているため。今後の課題については、後援会などからの支出を検討している。学生のアンケートでは、「残さずに食べているか？」という質問に対して、109名中74名（68%）の学生が全部食べていると回答している。また、「食育について学んだことが自分の食生活に活かしているのか？」という質問に対しては、107名中81名（75%）の学生が、食育がランチの完食や健全な食生活につながっていると前向きな回答をしていることがわかっている。



## 6. 相互評価の結果報告

### (1) 青森明の星短期大学に対する評価

大阪千代田短期大学 ALO 鯨坂 はるよ

(評価・指摘事項)

#### 「基準Ⅱ-A 教育課程」

- 1、DP アセスメントシステムの可視化に向けた取り組みについて  
「ディプロマポリシーに基づいた3つの力の評価の観点と達成水準」の策定が進められ、可視化されることにより、自分自身がどこまで到達しているということが、学生にわかりやすい。また、学生が自分で到達目標を設定できるという点でも有効であると考えられる。
- 2、「学修ポートフォリオの活用」「卒業論文の水準(ルーブリック)」「実習、インターンシップでの第三者評価」についても可視化に向けて検討中ということで、今後の期待は大きく、その内容についてもご教示願いたい。
- 3、「科目ナンバリング」により、学生が科目の「難易度」を把握できる。カリキュラムツリーにおいても科目ごとに難易度が表示されていれば、学生は2年間で「学びの積み上げ」と「学修成果の獲得」について、さらに理解できるのではないか。
- 4、「ティーチング・ポートフォリオの作成」により、アクティブラーニングの技法をどの程度取り入れられたか、また3つのポリシーに基づいた授業内容が行えているかも確認でき、教員が自らの教育活動を振り返り、改善できる仕組みがある。
- 5、高大連携の取り組みも多くなされており、高く評価できる。その内容についてもご教示願いたい。
- 6、到達点と課題が明確に把握されていて、高く評価できる。また、その客観的な根拠資料も示され、わかりやすい。

## 「基準Ⅱ-B 学生支援」

- 1、職業訓練生や社会人学生の学び直しに対応するための施設（あけのほしナーサリールーム）を設置し、多様な学生の学びの機会を保障している。また、学生の保育実践の場にも活用されている。
- 2、「しんまちキャンパス」を設置し、「まちなか」に活動拠点を置き、誰でも学びやすい環境を整えている。
- 3、奨学金制度が整っていることも高く評価できる。経済的に困難を抱える学生も学ぶことができる。
- 4、地域連携センター、生涯学習センターが有効に機能することにより、学生の地域貢献活動、ボランティア活動、課外活動も活発に行われ、高く評価できる。
- 5、「ロイロ・ノート」等、ICT（情報通信技術）の活用が活発に行われており、学習環境が整備されている点も高く評価できる。
- 6、学内ワークスタディの内容も充実しており、多くの学生が参加し、様々な学びの機会を設けていることも高く評価できる。
- 7、チューター制度と学生振り返り記録システムの活用により、学生が常に教員に相談できる体制作りと、学生との面談記録の情報共有ができる体制となっている点も高く評価できる。
- 8、到達点と課題が明確に把握されていて、高く評価できる。また、その客観的な根拠資料も示され、わかりやすい。

## (2) 大阪千代田短期大学に対する評価

青森明の星短期大学 ALO 泉谷千晶

### 「基準Ⅱ-A 教育課程」

(評価・指摘事項)

#### 1. DP のアセスメントシステムについて

シラバスでの記載はあるが、学校案内には記載が見あらず表に伝わりにくい。

また、貴学のDPは、①情熱・使命感・責任感、②知識・技術、③探求・主体性、④人権・共感、という4つの構成であるが、特に①③④に対するDPの達成度の測定や可視化をどう行うかが課題と思われる。

DPの構成が学士力に加え2040年を見据えた人材に必要な資質や能力(OECDにおけるキー・コンピテンシー、21世紀型スキル、汎用的能力など)とのつながりがわかりやすいと、社会のニーズに応える人材育成としての強みが増すと思われる。

ちなみに産業界が学生に期待する資質能力・知識のトップ3(社会人基礎力)は、①主体性・実行力、②課題設定・解決能力、③チームワーク・協調性ということである。

#### 2. CP の構造化(カリキュラムツリー)に関して

学修の順序については見やすい表となっている。

しかし、特に専門科目については、授業科目間の関連性や系統性が見えにくいいため、関連する科目を線で結ぶなど何らかの方法で示すことが必要と思われる。

#### 3. 自学自習のための「空きコマ」の有効活用について

空きコマを有効活用し、補習や講座等により学生の自主性を育てる工夫が見られる。

有効性については、学修行動調査等に基づき、学修成果にどう結びついているかを検証していくことが必要と思われる。

#### 4. 受験前~合格後~入学後に連続する「無料」ピアノ教室

本学のオープンキャンパスに対する要望の調査でも、ピアノに関する不安は大きく受験生の関心が高い。貴学では、オープンキャンパスからピアノ教室受講に繋げ、プレカレッジと6回の無料レッスンをを行い、入学後もピアノ・音楽専門の教員が習熟度別個人レッスンを行っている。

入学前の「無料」ピアノ教室は、大阪(25ヶ所)、奈良(11ヶ所)、和歌山(9ヶ所)、三重(4ヶ所)、鳥取(1ヶ所)と50ヶ所に及んでいる。これらの運営方法についてもご教示願いたい。

#### 5. 高大連携(接続)の取り組みについて

系列校に幼児教育コースをつくり、高短の5年一貫教育に取り組み、2020年度には1期生40名(100名定員)が短大に入学する実績について、高く評価できる。5年一貫教育による今後の学修の成果に大きな期待が寄せられる。

## 「基準Ⅱ-B 学生支援」

### 1. 学習環境の整備について

学生支援委員会による「学生相談室との意見交換」や「障害学生支援研修会」等、合理的配慮が必要な学生への対応が組織的になされている。施設設備においてもエレベーターやスロープ、点字ブロック、車いす対応のトイレ、車いす昇降機等、障がい者に配慮されているが高く評価できる。

### 2. 学習環境を支える施設設備

本館には吹き抜けで開放感のあるロビー(談話スペース)、コンピューター室、乳幼児保育実習室、図工室、音楽室、ピアノレッスン室、屋上庭園、学生食堂、学内コンビニ(大学生協)、図書館(AV コーナー)等が完備され、総合館には学生ホール、リズム室、ロッカー室(男女別室)、ちよたん保育環境センター、アリーナ(体育館)があり、その他にクラブ室等、キャンパス・アメニティが充実している。また、Google ストリートビューで「ちよたん」をバーチャル体験することができる。

その他に付属幼稚園とグループ保育園があり、ボランティアや実習、授業でも活発に現場体験・交流が行われ、高く評価できる。

### 3. ちよたんランチ(週2回無料)の取り組み

教育教育的な目的、食育の推進から、学園・大学と生協理事会との定期懇談会を行い、2019年度より週2日の無料ランチを実施している。これは、学生への食育の浸透を共に健康増進にも繋がり、大変ユニークな取り組みで高く評価できる。

### 4. 就職・進路サポートについて

内定者の研修中の訪問、毎年の卒業生の就職先訪問(730日先まで)、手厚いフォローを行っているため、卒業生の評価についても直接聴取することができ、高く評価できる。

### 5. 多様な奨学金制度及び経済的支援策に関して

オープンキャンパス参加、受験のための遠隔地交通費補助制度や遠隔地(大阪・奈良・和歌山以外)の学生に下宿費補助として最大15万円の奨学金、指定校推薦入試奨学金、A0入試奨学金、千代田学園奨学金、同窓会による「ひまわり学業奨励金」等の独自の多様な奨学金がある。

さらに、授業料減免制度も充実しており、卒業生、在学生の兄弟姉妹・父母・子女、孫を対象とした「カレッジメイト」、実習先やインターンシップ受け入れ先などの職員等の子女・兄弟姉妹・孫を対象とした「フレンドシップ」など幅広く対応しており高く評価できる。

## おわりに

### —小さな大学の大きな試み—

大阪千代田短期大学 学長 松浦善満

両短期大学の「相互評価活動」には、大きな節目が3回ありました。その一は2019年11月14日、大阪千代田短期大学での石田学長報告による研修会です。その二は12月11日に松浦と岡本（高野山大学）が報告した青森明の星短期大学での研修会。三つは、本年2月14日、東京のアルカディア市ヶ谷で両大学から6名ずつ総計12名が参加して相互評価を行った合同研修会でした。

なお、3回の研修会は双方のALO、事務局のメンバーの支えがあっこそ遂行できたのです。振り返れば、最も規模の小さな二つの短期大学による、大きな意味のある相互評価事業でした。

青森明の星短期大学は、文科省の施策をリードする「プラットフォーム事業」をはじめ、下北キャンパスを稼働されており、大阪千代田短期大学は同一キャンパス内に高野山大学文学部の「子ども学科新設」する短大・四大共同事業計画を進めているように、小さな短期大学同士が「大きなビジョン」に向かっているのは決して偶然ではないでしょう。

今回、日本短期大学基準協会の相互評価事業が、このように小さな大学の大きな試みを創り出す後押しをしていただいたことに、心から感謝し結びの言葉といたします。

2020年6月2日